

講義概要

2022年度

第23期生

仁心看護専門学校

教育課程

教育理念・目的・目標	1
学年別教育目標	2
教育計画体系	3
学校行事の目的・目標	6
カリキュラム概要（講義・演習）	7
学科進捗表	14
テキスト一覧	19

基礎分野

心理学	23
倫理学	24
人間関係論	25
生活環境論	26
論理学	27
情報科学	28
教育学	29
文学	30
コミュニケーション論	31
物理学	32
社会学	33
ボランティア論	34
ボランティア実践	35
医療英語	36
健康と運動	37

専門基礎分野

細胞・骨・筋肉の構造と機能	39
呼吸・循環・血液・体温調節の構造と機能	40
消化器・内分泌の構造と機能	41
腎・泌尿器・生殖器の構造と機能	42
脳神経・感覚器の構造と機能	43
栄養学	44
生化学	45
薬理学総論	46
臨床薬理学	47
微生物	48
病態学総論	49
治療総論	50
呼吸・循環器系の疾病と治療	51

運動器系の疾病と治療	52
消化器・内分泌系の疾病と治療	53
腎・泌尿器・生殖器の疾病と治療	54
血液・脳神経系の疾病と治療	55
保健医療論	56
社会福祉論	57
障害者福祉論	58
臨床心理学	59
公衆衛生	60
関係法規	61
専門分野	
基礎看護学	63
看護の扉	
看護コミュニケーション技術	
患者を正しく診る技術	
呼吸・循環・体温を整える技術	
環境調整・活動・休息の援助技術	
食事・排泄の援助技術	
皮膚・粘膜保全の援助技術	
与薬の援助技術	
看護の思考と行動の道筋	
生体モニタリングと救命救急処置	
看護の探求	
病院における看護の場と人を知る実習	
看護実践力の基礎を培う実習	
地域・在宅看護論	77
地域での暮らしを知る	
在宅で療養・生活する人とその家族の理解	
地域での暮らしを支える看護	
地域での暮らしを支える多職種連携	
地域での暮らしを支える看護実践プロセスⅠ	
地域での暮らしを支える看護実践プロセスⅡ	
地域での暮らしを支える看護実践力を培う実習	
成人看護学	84
成人期の理解	
循環器・呼吸器の機能障害をもつ人の看護	
運動機能障害をもつ人の看護	
腎・泌・生殖器の機能障害をもつ人の看護	
内分泌・栄養代謝機能障害をもつ人の看護	

生体防御・感覚機能障害をもつ人の看護	
成人の健康レベルに応じた看護	
看護の実践力を培う実習	
老年看護学	92
老年期の理解	
老年看護の基本技術	
高齢者の健康レベルに応じた援助方法	
老年期の患者の看護過程 事例展開	
地域で生活する高齢者を理解する実習	
小児看護学	97
子どもとその家族の理解	
子どもの疾病と治療	
子どもの健康問題と看護	
疾病や障害をもつ子どもの看護	
健康な子どもを理解する実習	
疾病や障害を持つ子どもへの看護実践を培う実習	
母性看護学	103
母性の理解	
妊婦の看護	
産婦の看護	
褥婦と新生児の看護	
女性を支える看護実践力を培う実習	
精神看護学	108
精神の健康の保持・増進	
精神の疾病と治療	
社会の中の精神障害	
精神に障害を持つ人への看護	
精神疾患患者への看護実践力を培う実習	
地域で暮らす精神障害者への看護実践力を培う実習	
看護の統合と実践	114
看護管理	
医療安全	
総合看護の実践	
国際・災害看護	
災害・救急時の看護実践力を培う演習	
実務に即した看護実践実習	

教 育 課 程

教育理念・教育目的・目標

〔教育理念〕

本校の教育理念は「人間尊重」と「人間愛」を基盤に、命の尊厳と、人々の多様な価値観を尊重し倫理に基づいた行動ができる能力や豊かな人間形成を目指し、専門職業人として自己研鑽に努めながら社会に貢献する人材の育成をめざす。

〔教育目的〕

すべての人々の生命と人権を尊重できる豊かな人間性の育成をはかるとともに、看護師に必要な知識・技術・態度を身につけ、社会に貢献できる看護実践者を育成する。

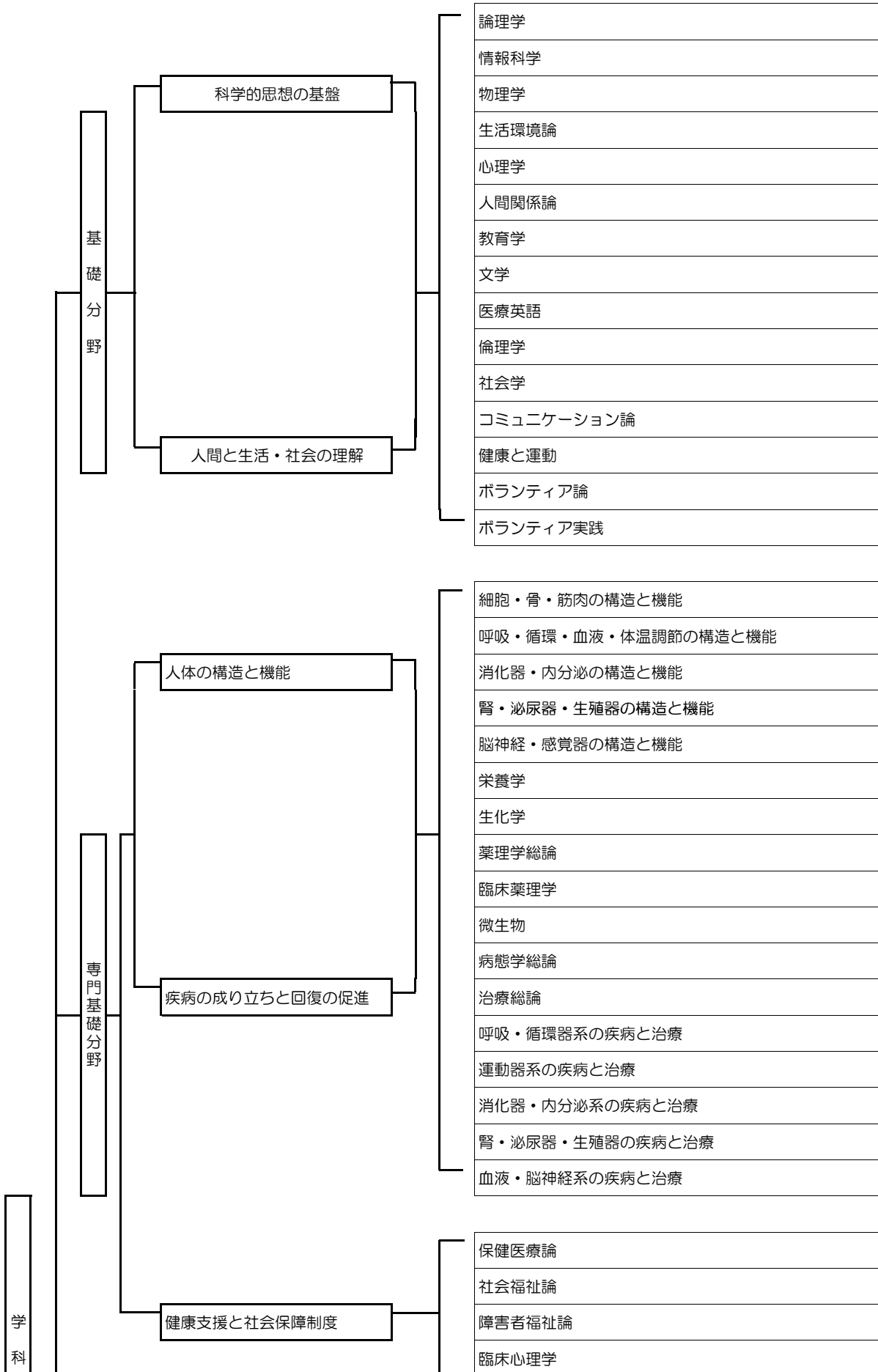
〔教育目標〕

目 標	卒業生の特性
1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在ととらえ、人々の健康と生活を幅広く理解できる。	①看護の対象を身体的・精神的・社会的な統合体として理解できる。 ②看護の対象を多角的とらえ、その人の生活や経験の意味、価値観を洞察することができる。
2. 理論と実践から導き出された看護の専門的知識と科学的根拠に基づく判断能力・問題解決能力を身につけ看護を実践できる。	①科学的思考に基づく問題解決能力を身につけることができる。 ②看護の対象の成長発達段階と健康レベルに適した看護過程が展開できる。 ③看護の対象を総合的に理解し、科学的な知識・技術に基づいた個別性のある看護を実践できる。
3. 倫理的問題の存在に気づき、対象の意思決定を支援できる力を培う。	①生命の尊厳と人権を尊重し、常によりよい行動を取ろうとする倫理的態度を身につけている。 ②倫理的問題の存在に着目し看護の対象が意思決定できるように支援することができる。
4. 保健・医療・福祉制度と他の職種の専門性や役割を理解し、多職種と協働できる。	①他職種の専門性と役割を理解し、連携・協働する積極性と協調性を身につけている。 ②社会資源の活用方法を理解できる。 ③保健・医療・福祉チームの一員として、看護の役割と責任を自覚し行動できる。
5. 変化する社会状況や価値観の多様性を理解する力を身につける。	①異なる文化や多様な価値観を理解し、尊重する態度を身につけている。 ②看護を取り巻く社会情勢やニーズを理解し、看護師に求められる役割や責任を自覚した行動ができる。 ③国際的視野に立って考え、看護実践できる基礎能力をもつ。
6. 主体的に看護を探求し続けていく姿勢を身につける。	①自己の人間の成長、看護実践能力の維持・向上を図る努力を継続している。 ②看護の向上をめざし、看護を継続して探求する姿勢を身につけている。 ③看護研究の意義を理解し、自分の行った看護を、研究方法に基いてまとめることができる。

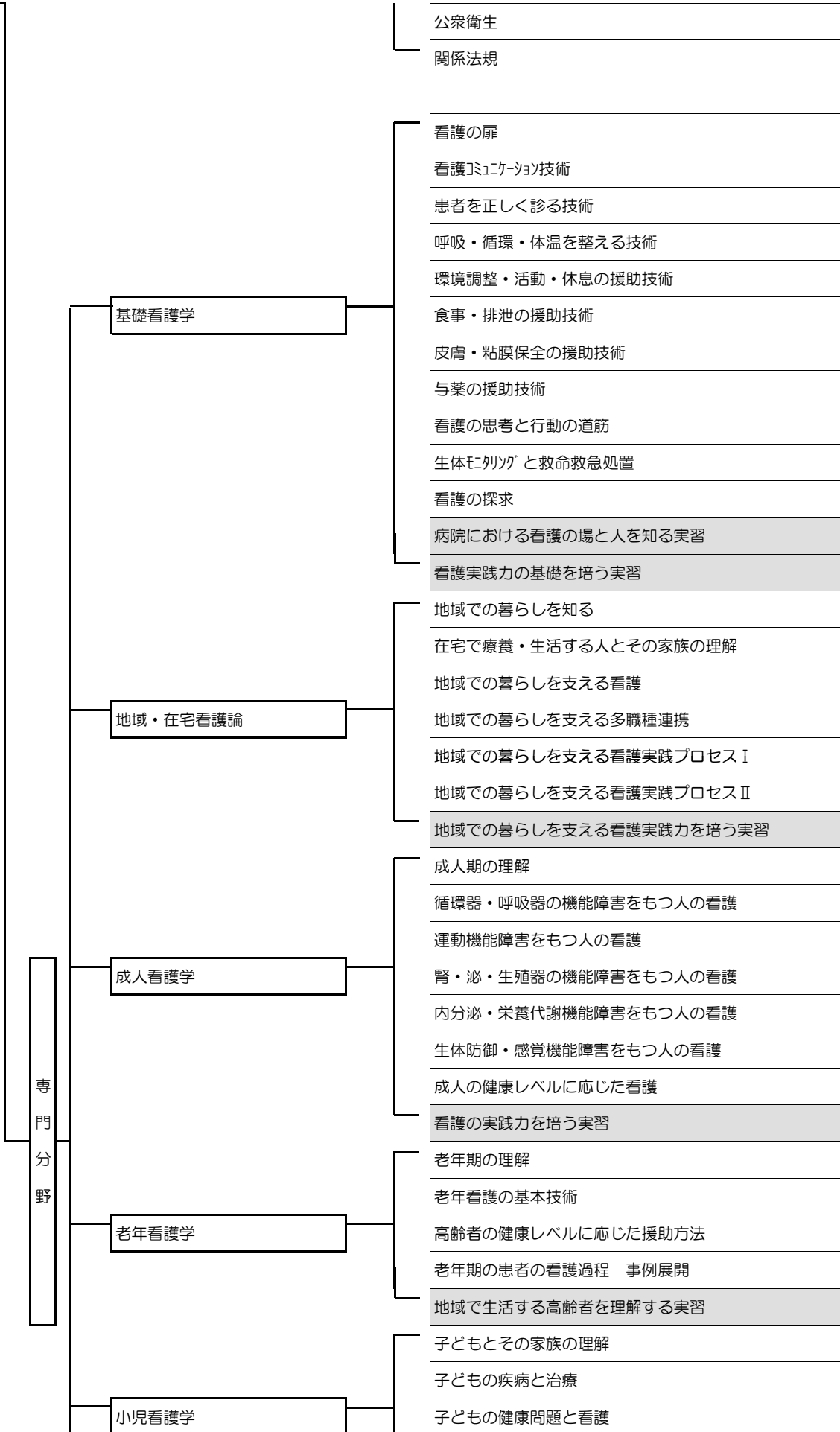
学年別教育目標

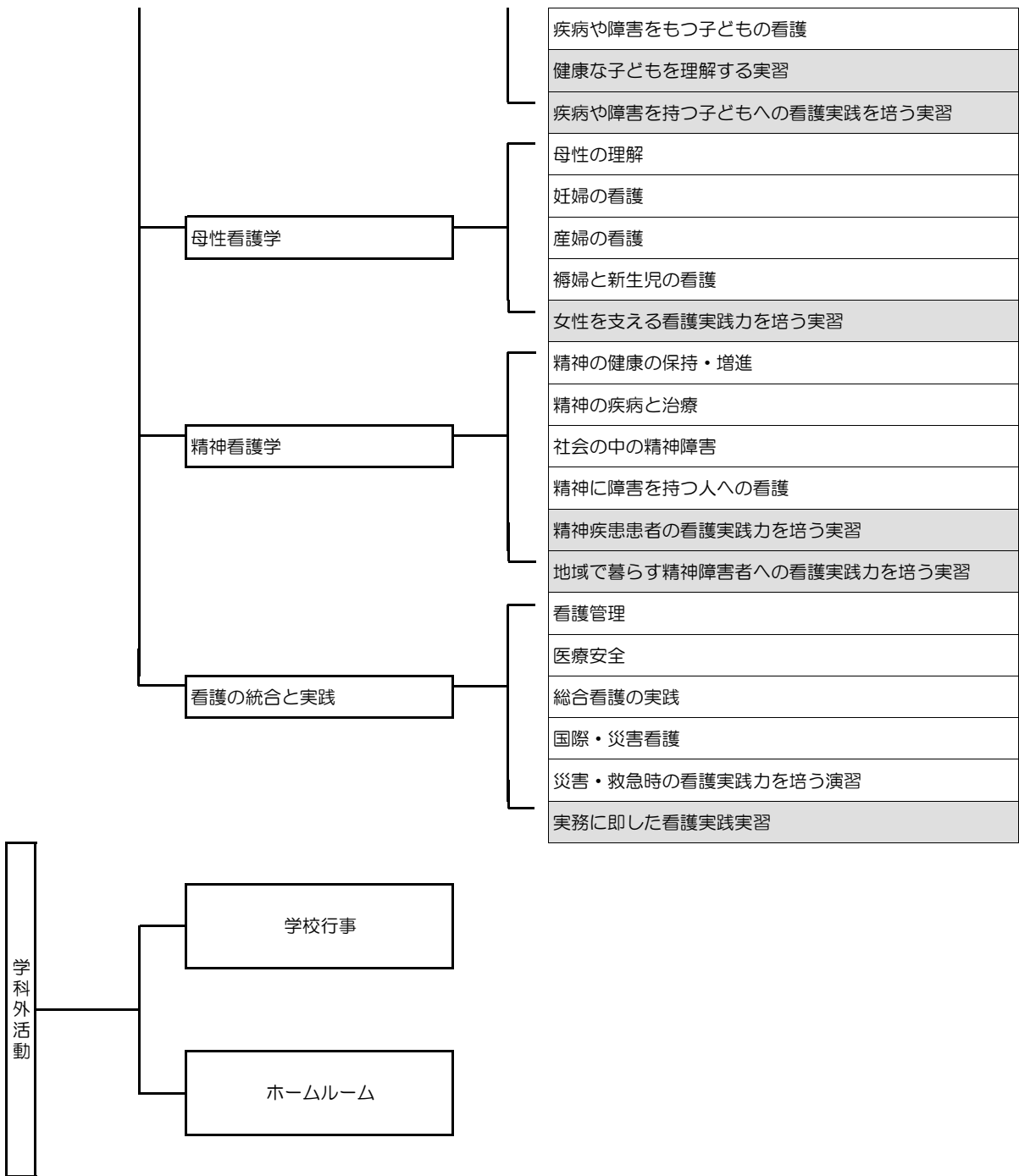
教育目標	到達目標		
	1年次	2年次	3年次
1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在にとらえ、人々の健康と生活を幅広く理解できる。	①地域で暮らす人々の生活を知る。 ②人間の基本的欲求を理解する。 ③人間のライフサイクルと成長発達段階を理解する。 ④人間の健康は環境と相互に影響しあっていると理解できる。	①看護の対象の基本的欲求を理解することができる。 ②看護の対象を成長発達段階からとらえることができる。 ③看護の対象をあらゆる健康レベルからとらえることができる。 ④看護の対象を、身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する意義と方法を理解する。	①看護の対象を身体的・精神的・社会的な統合体として理解できる。 ②看護の対象を多角的にとらえ、その人の生活や経験の意味、価値観を洞察することができる。
2. 理論と実践から導き出された看護の専門的知識と科学的根拠に基づく判断能力・問題解決能力を身につけて看護を實踐できる。	①人体の機能と構造に関する知識を身につける。 ②看護過程の意義と展開方法を理解する。	①病態と治療に関する知識を身につける。 ②対象の基本的欲求充足のための看護過程が展開できる。 ③対象の成長発達段階・健康のレベルに適応した基礎的な看護過程が展開できる。	①科学的思考に基づく問題解決能力を身につけることができる。 ②看護の対象の成長発達段階と健康レベルに適応した看護過程が展開できる。 ③看護の対象を総合的に理解し、科学的な知識・技術に基づいた個別性のある看護を實踐できる。
3. 倫理的問題の存在に気づき、対象の意思決定を支援できる力を培う。	①人間をかけがえのない尊い存在として認識できる。 ②倫理的問題に関心を向けることができる。	①生命の尊重と人間の尊厳の大切さが理解できる。 ②倫理的問題の存在に気づき、対象の意思決定を支援する必要性を理解できる。	①生命の尊厳と人権を尊重し、常によりよい行動を取ろうとする倫理的態度を身につけている。 ②倫理的問題の存在に着目し看護の対象が意思決定できるように支援することができる。
4. 保健・医療・福祉制度と他の職種の専門性や役割を理解し、多職種と協働できる。	①人の話をありのままに素直に聴ける。 ②グループ活動で協調性をもち、責任ある行動がとれる。 ③医療と保健・福祉システムとの関連を理解できる。	①共感的理解に基づく態度がとれ、能動的に他者との関係を築くことができる。 ②保健・医療・福祉チームにおける他の職種の専門性と役割を理解できる。 ③保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を理解し責任を自覚する。	①他職種の専門性と役割を理解し、連携・協働する積極性と協調性を身につけている。 ②社会資源の活用方法を理解できる。 ③保健・医療・福祉チームの一員として、看護の役割と責任を自覚し行動できる。
5. 変化する社会状況や価値観の多様性を理解する力を身につける。	①異なる文化や多様な価値観があることを知る意義を理解する。 ②看護を取り巻く社会情勢やニーズに関心をもちることができる。	①異なる文化や多様な価値観があることを理解できる。 ②看護を取り巻く社会情勢やニーズを理解できる。 ③国際的医療・看護事情を知る。	①異なる文化や多様な価値観を理解し、尊重する態度を身につけている。 ②看護を取り巻く社会情勢やニーズを理解し、看護師に求められる役割や責任を自覚した行動ができる。 ③国際的視野に立って考え、看護實踐できる基礎能力をもつ。
6. 主体的に看護を探求し続けていく姿勢を身につける。	①主体的な学びとは何かを考えて行動できる。 ②主体的に学習できる習慣が身についている。 ③疑問や課題に対し、思慮し、解決策を見いだそうとする姿勢がある。	①問題意識を持って主体的に学習する姿勢が身についている。 ②自己の視野を広げ新しい知識を身につけるための行動ができる。	①自己の人間の成長、看護実践能力の維持・向上を図る努力を継続している。 ②看護の向上をめざし、看護を継続して探求する姿勢を身につけている。 ③看護研究の意義を理解し自分の行った看護を、研究方法に基づいてまとめることができる。

教育計画体系



活動





学校行事の目的・目標

目的

学校教育理念を基に人間としての教養を高め、集団生活を通して主体性・協調性・リーダーシップ・責任感を身につける。

行 事	学 年	実施月	目 標
入 学 式	1 学年	4 月	新入生は学校の校風に接し、本校の学生としての自覚を持つ。 在校生は上級生としての自覚と責任を再認識する。
新 入 生 オリエンテーション	1 学年	4 月	学則・カリキュラムを理解し、学習目的を明確にする。 学生相互の理解と学校の環境を知る。
健 康 診 断	全 学 年	4 ～ 5 月	学生の健康状態の把握と管理をする。 自己の健康状態を知り、健康管理に努める。
歓迎レクリエ ション	全 学 年	5 月 6 月	学生相互および教職員との親睦をはかる。 関連施設との交流 バレーボール大会 卓球大会
防 災 訓 練	全 学 年	6 月	日常生活における防災への認識を深め、災害時的確な判断のもとに敏速な行動がとれるよう訓練する。
戴 灯 式	1 学年	1 1 月	戴灯式を通して、看護を志す者としての誇りと自覚を新たに し、学習にとり組む心構えを強くする。
ケース・スタ ディ発表	3 学年	1 2 月	看護研究をまとめることにより、看護に対する考え方を深め、 研究的態度を養う。また、実践した看護活動を通して自己の看護観をまとめ発表する機会とする。
卒 業 式	全 学 年	3 月	卒業式を通して、看護基礎教育を終了し看護職者としての自覚 と責任を新たに作る機会とする。

カリキュラム概要（講義・演習）

基礎分野

目的：科学的思考の基礎を学び、人間と人間生活を理解するための能力を養う。

教科のねらい	科目	単位 (時間)
1. 人間の心や行動の基礎にある原理を学び、環境に適応しながら生きている人間について総合的に捉え、自己を理解するとともに他者の理解を深める。	心理学	1 (30)
1. 人間の行為や道徳について理解し、人間の価値観の形成や尊重について学ぶ。	倫理学	1 (30)
1. 人間関係の基礎的な理論を理解し、他者との関わりの中で援助的関係、治療的関係、信頼関係の形成障害要因、継続要因について学ぶ。	人間関係論	1 (30)
1. 人間を生活者としてとらえ、生活を営む人間の実態を理解する。さらに生活するための具体的環境の理解を促し、生活環境から生じる健康問題を理解する。	生活環境論	1 (15)
1. 正しい思考の形式と法則を学び、論理的思考、文章表現を学ぶ文章表現の方法も学ぶ。	論理学	1 (30)
1. 情報処理の基本的な考え方を理解し、情報の収集と整理、活用方法について学ぶ。	情報科学	1 (30)
1. 教育の本質を学び、人間の成長発達と学習を社会との関連において理解し、看護者としての教育的役割を学ぶ。	教育学	1 (30)
1. 文学を通して人間の存在、生き方などの多様性を理解し、豊かな感性を養う。また、文章の読解力、表現力を養う。	文学	1 (30)
1. 社会生活を送る上で必要なコミュニケーションスキルの重要性を理解し、方法を学ぶ。	コミュニケーション論	1 (15)
1. 看護活動における様々な行動、現象の根拠を理解する。	物理学	1 (15)
1. 人間と社会の関係性を理解し、社会を理解した人間となる必要があることを学ぶ。	社会学	1 (15)
1. 社会におけるボランティアの意義を理解する。 2. ボランティア活動に必要な知識と心構えを理解する。	ボランティア論	1 (15)
1. ボランティア活動の多様な領域を理解し、活動実践に繋ぐことができる。	ボランティア実践	1 (15)
1. 看護活動に役立つ英会話の基礎能力を身につける。 2. 医療情報や医療文献を解読する基礎的能力を養う。	医療英語	1 (30)
1. 健康づくりへの意識を高め、健康的な生活習慣を確立し、看護場面で役立てられる日常的に出来る運動を習得する。 2. 運動の必要性を理解し、身体を動かすことの楽しさを広く伝える。 3. 職場で活用できる技能を身につけ、社会生活に必要な「協調性・自主性」を集団運動の中で養い、総合的な自己能力の向上を図る。	健康と運動	1 (30)
計		15 (360)

専門分野基礎

目的：人間・医学・保健医療福祉に関わる基礎的知識を学び、看護の対象である人間理解に役立てる。

教科のねらい	科目	単位 (時間)
1. 身体の構造を理解する。人間にとって各器官系統の持つ働きの意味を理解する。特に骨格・筋・生殖器系についての構造と機能を理解する。	細胞・骨・筋肉の構造と機能	1 (15)
1. 呼吸器・循環器系の構造を理解し、生命現象の基本としての認識の上に、呼吸、循環の働きを関連づけて理解する。 2. 体温の調節について理解する。	呼吸・循環・血液・体温調節の構造と機能	1 (30)
1. 生体内外の環境の変化に対応する自律神経とホルモンの作用について理解する。 2. 消化器系の構造を理解し、消化・吸収のしくみについて理解する。	消化器・内分泌の構造と機能	1 (30)

1. 腎・泌尿器の構造を理解し、排泄のしくみについて理解する。 2. 生殖器の構造と機能を理解する。	腎・泌尿器・生殖器の構造と機能	1 (30)
1. 神経系の構造・機能を理解し、外界の刺激を受容するしくみや各刺激に応じた反応のしくみを理解する。	脳神経・感覚器の構造と機能	1 (30)
1. 健康にとっての栄養の意義と病態栄養について理解する。	栄養学	1 (15)
1. 生体を構成する物質と生体の恒常性維持機能を理解する。	生化学	1 (15)
1. 薬物の薬理作用及び人体への影響を理解する。	薬理学総論	1 (15)
1. 臨床でのおもな薬物の作用を理解する。	臨床薬理学	1 (30)
1. 微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解し、対処方法を学ぶ。	微生物	1 (15)
1. 基本的な病因と病変の特徴を理解する。	病態学総論	1 (15)
1. 運動器系の疾病の病態と治療・検査について学ぶ。	運動器系の疾病と治療	1 (15)
1. 呼吸器・循環器系の疾病の病態と治療・検査について学ぶ。	呼吸・循環器系の疾病と治療	1 (30)
1. 消化器・内分泌疾病の病態と治療・検査について学ぶ。	消化器・内分泌器系の疾病と治療	1 (30)
1. 腎・泌尿器・生殖器系疾病の病態と治療・検査について学ぶ。	腎・泌尿器・生殖器の疾病と治療	1 (30)
1. 血液・造血器・脳・神経系疾病の病態と治療・検査について学ぶ。	血液・脳神経系の疾病と治療	1 (30)
1. 代表的な治療法を学び、生体への影響について理解する。	治療総論	1 (15)
1. 保健医療の概念および動向を学び、現代における保健・福祉・医療の活動システムを理解する。	保健医療論	1 (15)
1. 健康問題と人間心理の関係について触れ、人間の病的状態における心理状態に対し、どのような援助を必要としているかについて方向性を学ぶ。	臨床心理学	1 (30)
1. 障害者福祉の概念を理解し、現在抱えている問題点や背景を知り、看護職としての役割を学ぶ。	障害者福祉論	1 (15)
1. 社会福祉の概念と制度について理解し、現在の国民の福祉へのニーズとその対応について学ぶ。	社会福祉論	1 (15)
1. 法の基礎的知識および保健医療に関係のある法規を学び、医療従事者としての業務と責任を自覚する。	関係法規	1 (15)
1. 看護の対象が生活する家族・集団・地域において、健康を保持増進するための環境保健やヘルスプロモーション活動について学ぶ。	公衆衛生	1 (30)
計		23 (510)

専門分野

目的：各看護学及び地域・在宅看護論に共通の基礎的理論や基礎的技術、健康障害に応じた看護の基礎的援助方法を学ぶ。

教科のねらい		科目	単位 (時間)
基礎看護学	・看護の概念を理解し、看護の対象となる人間を総合的に理解して、保健医療における看護の役割について学び、健康上の問題に対応するために必要な看護の基本的知識・技術・態度を習得する。		
	1. 看護全般の主要概念を捉えて総合保健医療の中での看護の位置づけ、専門性について学ぶ。	看護の扉	1 (30)
	1. 看護に必要なコミュニケーション技術を習得する。	看護コミュニケーション技術	1 (15)
	1. 生命の徴候の正確な測定方法を習得する。 1) フィジカルイグザミネーションを習得しヘルスアセスメントの基礎的能力を身につける。	患者を正しく診る技術	1 (30)
	1. 呼吸・循環・体温を整える技術を習得する 1) 酸素療法・吸引・吸入・温罨法・冷罨法他	呼吸・循環・体温を整える技術	1 (30)
	1. 環境調整技術・活動休息技術を習得する。 1) ベッドメイキング・体位変換・移動他	環境調整・活動休息の援助技術	1 (30)
	1. 食事援助技術・排泄援助技術を習得する。 1) 食事介助・おむつ交換・陰部洗浄他	食事・排泄の援助技術	1 (30)
	1. 清潔援助技術を習得する。 2. 感染予防についての技術を習得する。 1) 入浴介助・清拭・洗髪他	皮膚・粘膜保全の援助技術	1 (30)
	1. 薬物療法に伴う基礎的援助技術を習得する。	与薬の援助技術	1 (15)
	1. 看護の対象を理解し、必要な看護の考え方が理解できる。	看護の思考と行動の道筋	1 (30)
	1. 生体機能管理技術を習得する。 2. 救命救急処置の基礎知識と技術を習得する。	生体モニタリングと救命救急処置	1 (15)
	1. 看護研究について基礎的知識を学ぶ 2. 看護研究プロセスをふまえケース・スタディの論文を作成する。 3. 看護研究について関心を持つ。	看護の探求	1 (30)
	臨地実習		
基礎看護学	1. 療養する病院の環境を知る。 2. 看護の対象を知り、助言を得ながら必要な日常生活行動の援助ができる。	病院における看護の場と人を知る実習	1 (45)
	1. 看護の対象の情報から患者を統合的に理解できる。 2. 科学的根拠に基づいた看護を実践できる思考過程を身につける。	看護実践力の基礎を培う実習	2 (90)
計			14 (420)

教科のねらい		科目	単位 (時間)
地域・在宅看護論	・傷病・障害がありながら在宅で療養・生活する人とその家族を対象とし、対象がセルフケア能力を高めるための支援、およびニーズに基づく生活行動の支援方法を学ぶ。 ・対象が望ましい生活をするための社会資源の活用や多職種との連携のための調整の必要性を理解し、あわせて地域での保健・医療・福祉における看護の果たす役割を理解する。		
	1. 地域で生活する人の暮らしや生活環境の実際を知る。 2. 地域での生活に必要な環境を理解する。	地域での暮らしを知る	1 (30)
	1. 在宅看護の変遷とその社会背景を学び、在宅看護の必要性を理解する。 2. 地域包括ケアシステムについて理解する。	在宅で療養・生活する人とその家族の理解	1 (15)

	1. 在宅で療養する人とその家族を対象とし、日常生活援助、医療的援助における基礎的技術の展開方法を理解する。	地域での暮らしを支える看護	1 (15)
	1. 多職種の役割を理解する。 2. 他職種との連携・協働の必要性を理解する。 2. ニーズと優先に応じてチームでケアを行うことが理解できる。	地域での暮らしを支える多職種連携	1 (15)
	1. 療養者とその家族を取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の課題を理解する。 2. 対象に必要な在宅看護の展開方法を理解する。	地域での暮らしを支える看護実践プロセスⅠ	1 (15)
	1. 療養者とその家族への看護を展開することで、臨床判断に必要な基礎的能力を習得する。	地域での暮らしを支える看護実践プロセスⅡ	1 (15)
臨地実習			
	・在宅で看護を必要としている個人とその家族に対して、生活の現状をふまえた看護援助が実践できる能力を養う。また、地域で生活している人々が保健サービスを利用して、健康の保持増進とより質の高い生活を送ることができるよう援助することの必要性を理解する。	地域での暮らしを支える看護実践力を培う実習	2 (60)
計			8 (165)

教科のねらい		科目	単位 (時間)
成人看護学	・成人期にある対象を総合的に理解し、健康の保持増進および疾病・障害における看護に必要な知識・技術・態度を習得する。		
	1. 成人各期にある対象の特徴と各発達段階に応じた健康上の課題を理解し、健康の保持増進と疾病の予防について学ぶ。	成人期の理解	1 (30)
	1. 循環機能障害や呼吸機能障害をもつ対象の看護を学ぶ。	循環器・呼吸器の機能障害を持つ人の看護	1 (30)
	1. 運動機能障害をもつ対象の看護を学ぶ。	運動機能障害を持つ人の看護	1 (15)
	1. 腎・泌尿器・生殖器に障害をもつ対象の看護を学ぶ。	腎・泌・生殖器の機能障害を持つ人の看護	1 (15)
	1. 内分泌・栄養代謝機能障害を持つ人の看護を学ぶ。	内分泌・栄養代謝機能障害を持つ人の看護	1 (30)
	1. 生体防御・感覚機能障害を持つ人の看護を学ぶ。	生体防御・感覚機能障害を持つ人の看護	1 (30)
	1. 成人看護の基本となる理論・モデルについて学ぶ。 2. 健康レベルの回復にかかわる看護の役割について学ぶ。	成人の健康レベルに応じた看護	1 (30)
計			7 (180)

教科のねらい		科目	単位 (時間)
老年看護学	・老年期にある対象の特徴を理解し、加齢現象や健康障害のある老人のQOLを尊重し、健康レベルに応じた看護に必要な知識・技術・態度を習得する。		
	1. 老年期にある対象の特徴と高齢社会における保健・医療・福祉の意義について理解し、保健活動と看護の役割について学ぶ。	老年期の理解	1 (30)

	1. 高齢者に対する日常生活援助の方法を理解する。	老年看護の基本技術	1 (15)
	1. 健康障害をもつ老人を理解し、健康レベルに応じた援助方法を理解する。	高齢者の健康レベルに応じた援助方法	1 (30)
	1. 問題解決思考力を身につけ、看護実践ができる基礎を築く。	老年期の患者の看護過程事例展開	1 (30)
臨地実習			
老年看護学	・老年期にある対象の特徴を理解し、コミュニケーションを図ることができる。 ・老年期にある対象の発達段階と老化の特徴および健康障害を把握し、人格を尊重しながら対象と家族に応じた援助ができる。	地域で生活する高齢者を理解する実習	2 (90)
計			6 (195)

臨地実習			
成人・老年看護学	・各期にある対象の特徴と健康保持増進の重要性を理解し、健康障害のレベルに適応した看護が実践できる基礎的知識・技術・態度を身につける。	看護の実践力を培う実習	6 (270)
計			6 (270)

教科のねらい		科目	単位(時間)
小児看護学	・小児各期の特徴を理解し、その成長発達に応じた養護・疾病と障害を持つ児とその家族に対する看護に必要な知識・技術・態度を習得する。		
	1. 成長・発達過程にある子どもとその家族を理解し、健康増進のための看護について学ぶ。	子どもとその家族の理解	1 (30)
	1. 小児によく起こる病気や症状を理解する。	子どもの疾病と治療	1 (15)
	1. 健康障害が小児および家族に及ぼす影響を理解し、発達段階を考慮した看護について学ぶ。	子どもの健康問題と看護	1 (30)
	1. 子どもと家族の事例を通して看護実践ができる基礎を学ぶ。	疾病や障害を持つ子どもの看護	1 (30)
臨地実習			
小児看護学	1. 小児看護の基礎としての健康な乳幼児の成長・発達の特徴を理解し、対応の実際を学ぶ。	健康な子どもを理解する実習	1 (30)
	1. 健康障害をもつ小児とその家族を理解し、発達段階と個性性をふまえた援助のあり方を学ぶ。	疾病や障害を持つ子どもへの看護実践力を培う実習	2 (60)
計			7 (195)

教科のねらい		科目	単位 (時間)
	1. 家族に対する保健指導を行なうための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。 2. 次の世代を生み育てることの重要な意義を理解し、母性の一生を通じた健康の保持増進・疾病予防と健康の回復のための看護に必要な知識・技術・態度を習得する。		
母性看護学	1. 母性看護の対象について身体・心理社会的側面から学ぶ 2. 母性に関する動向や保健制度を学ぶ 3. 母性看護の特徴について学ぶ	母性の理解	1 (15)
	1. 母体と胎児の正常な妊娠経過に伴う変化とその特性を理解する 2. 妊婦とその家族に必要な看護(保健指導)を学ぶ 3. ハイリスク妊娠とその看護を学ぶ 4. 事例を基にした看護過程を展開する	妊婦の看護	1 (30)
	1. 分娩・産褥経過に伴う母性の変化とその特性を理解する 2. 産婦・褥婦及びその家族に必要な看護援助を学ぶ 3. 事例を基にした看護過程を展開する	産婦の看護	1 (30)
	1. 新生児の生理的特徴や変化、適応過程を理解し、育児技術を学ぶ 2. 母乳育児の特性を理解する 3. 育児支援に役立つ情報提供とケアについて理解する 4. 事例(褥婦・新生児)を基にした看護過程を展開する	褥婦と新生児の看護	1 (30)
	臨地実習		
母性	1. 妊娠・分娩・産褥各期と新生児を理解し、母性の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。	女性を支える看護実践力を培う実習	2 (90)
計			6 (195)

教科のねらい		科目	単位 (時間)
	人間のライフサイクルにおける精神の健康の保持増進および精神の障害時の看護に必要な知識・技術・態度を習得する。		
精神看護学	1. 精神看護の目的、対象、機能と役割について理解する。 2. 精神の健康に影響を与える要因を理解し、精神の健康の保持・増進にかかわる保健活動について学ぶ。	精神の健康の保持・増進	1 (30)
	1. 精神保健医療福祉の歴史的偏変遷から、精神に障害を持つ人の権利や処遇をめぐる問題、アドボカシーの考え方を学ぶ。 2. 精神に障害を持つ人を守る法制度について学ぶ。 3. 精神に障害を持つ人の地域生活を支えるシステムと社会資源について学ぶ。	社会の中の精神障害	1 (30)
	1. 主な精神疾患・障害の特徴と診断プロセス・治療について理解する。	精神の疾病と治療	1 (15)
	1. 精神に障害を持つ人へのケアの基本的な方法を学ぶ。 2. 精神症状によって影響された患者の状態を多角的にアセスメントすることができる能力を身につける。	精神に障害を持つ人への看護	1 (30)
	臨地実習		
精神看護学	1. 精神に障害をもつ対象の理解を深め、回復を促し、支援することのできる基礎的知識・技術・態度を身につける	精神疾患患者の看護実践力を培う実習	2 (90)
	1. 精神に障害を持つ人の地域生活を支援するための看護の役割を理解する。	地域で暮らす精神障害者への看護実践力を培う実習	1 (30)
計			7 (225)

教科のねらい		科目	単位 (時間)
看護の統合と実践	チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する。		
	1. 生命の尊重を機軸に職業倫理を理解する。 2. 看護活動を円滑に行うための管理について理解する。	看護管理	1 (30)
	1. 看護業務における医療事故の種類と事故発生要因について知り、基礎看護技術におけるリスクと安全性について学ぶ。さらに医療事故の分析を行いながら、事故発生のメカニズムと防止策を考え、事故後の対応を学ぶ。	医療安全	1 (15)
	1. 臨床に近い状況下で総合的な判断・対応を体験することにより、卒後の看護業務遂行のイメージができる。	総合看護の実践	1 (30)
	1. 看護学を地球レベルの広い視点からとらえ、世界の人々の健康状態と健康管理のあり方を理解する。 2. 災害が人々の生命や生活の影響を及ぼすことを理解し、災害時における看護支援活動を理解する。	国際・災害看護	1 (30)
	1. 災害・救急時を想定した援助を実施できる。	災害・救急時の看護実践力を培う演習	1 (30)
臨地実習			
	1. 病棟管理の実際を学び、チームの一員として看護を実践し、看護専門職としての役割を理解し自覚と責任を養う。	実務に即した看護を实践する	2 (90)
計			7 (225)

令和4年度入学生 学科進度表

分野	1年次											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
科目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
時間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
心理学	1 30											
人間関係論	1 30											
生活環境論	1 15											
論理学	1 30											
情報科学	1 30											
教育学	1 30											
文学	1 30											
Jコミュニケーション論	1 15											
物理学	1 15											
社会学	1 15											
ポランティア論	1 15											
細胞・骨・筋肉の構造と機能	1 15											
呼吸・循環・血液・体温調節の構造と機能	1 30											
消化器・内分泌の構造と機能	1 30											
腎・泌尿器・生殖器官の構造と機能	1 30											
血液・脳神経の構造と機能	1 30											
生化学	1 15											
栄養学	1 15											
薬理学総論	1 15											
微生物	1 15											
病態学総論	1 15											
運動器系の疾病と治療	1 15											
呼吸・循環器系の疾病と治療	1 30											
保健医療論	1 15											
社会福祉論	1 15											
臨床心理学	1 30											

テキスト一覧 23期生

分野	科目名	学年	単位	時間	出版社	書名
基礎	心理学	1	1	30	北大路書房	医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー
	倫理学	2	1	30	ナカニシヤ出版	看護のための生命倫理 改訂3版
	人間関係論	1	1	30	—	—
	生活環境論	1	1	15	技報堂	健康と環境の工学
	論理学	1	1	30	—	—
	情報科学	1	1	30	FOM出版	情報リテラシー 情報モラル&情報セキュリティ/Windows8
	教育学	1	1	30	医学書院	基礎分野 教育学
	文学	1	1	30	尚文出版	改訂版 漢字とことば 国語学習課題
	医療英語	3	1	30	南雲堂	First Primer(改訂新版)
	社会学	1	1	15	—	—
	物理学	1	1	15	医学書院	看護学生のための物理学
	コミュニケーション論	1	1	15	—	—
	ボランティア論	1	1	15	みらい	ボランティア論 「広がり」から「深まり」へ
	ボランティア論実践	3	1	15	—	—
	健康と運動	2	1	30	—	—
専門基礎	*細胞・骨・筋肉の構造と機能 *呼吸・循環・血液・体温調節の構造と機能 *消化器・内分泌の構造と機能 *腎・泌尿器・生殖器の構造と機能 *脳神経・感覚器の構造と機能	1	5	135	医学書院	解剖生理学
	生化学	1	1	15	メディカ出版 じほう	ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能 2 臨床生化学 初めの一步は絵で学ぶ生化学 (からだの不思議を解き明かす)
	栄養学	1	1	15	医学書院 文光堂	栄養学 腎臓病食品交換表 糖尿病食事療法のための食品交換表
	薬理学総論 臨床薬理学	1 2	1 1	15 30	医学書院	薬理学
	病態学総論	1	1	15	医学書院	病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進[2]
	微生物	1	1	15	メディカ出版	ナーシンググラフィカ 臨床微生物・医動物
	治療総論	2	1	15	メヂカルフレンド社	治療法概説 別巻
	呼吸・循環器系の疾病と治療	1	1	30	医学書院	成人看護学 [2]呼吸器 [3]循環器
	運動器系の疾病と治療	1	1	15	医学書院	成人看護学 [10]運動器
	消化器・内分泌系の疾病と治療	2	1	30	医学書院	成人看護学 [5]消化器 [6]内分泌・代謝
	腎・泌尿器・生殖器の疾病と治療	2	1	30		成人看護学 [8]腎・泌尿器 [9]女性生殖器
	血液・脳神経系の疾病と治療	2	1	30		成人看護学 [4]血液・造血器 [7]脳・神経
	保健医療論	1	1	15	—	—
	公衆衛生	3	1	30	医学書院	公衆衛生
	臨床心理学	1	1	30	—	—
	障害者福祉論	2	1	15	医学書院	社会保障・社会福祉
	社会福祉論	1	1	15	医学書院	社会保障・社会福祉
	関係法規	3	1	15	医学書院	看護関係法令

分野	科目名	学年	単位	時間	出版社	書名
専門	看護の扉	1	1	30	医学書院 日本看護協会出版	看護学概論 看護覚え書き:本当の看護とそうでない看護
	看護コミュニケーション技術	1	1	15	医学書院	基礎看護技術 I・II
	患者を正しく診る技術	1	1	30	学研メディカル秀潤社	看護技術 プラクティス
	環境調整・活動・休息の援助技術	1	1	30	インターメディカ	写真でわかる実習で使える看護技術アドバンス(Web動画付)
	食事・排泄の援助技術	1	1	30	医学書院	学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術
	皮膚・粘膜保全の援助技術	1	1	30	メディックメディア	看護がみえるvol.3フィジカルアセスメント
	与薬の援助技術	1	1	15		
	呼吸・循環・体温を整える技術	1	1	30		
	看護の思考と行動の道筋	1	1	30	医学書院 ヌーベルヒルワ	基礎看護技術 I ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断
	生体モニタリングと救命救急処置	1	1	15	南江堂	救急看護・クリティカルケア
	看護の探求	3	1	30	照林社	楽しくできるわかりやすい看護研究論文の書き方
	地域での暮らしを知る	1	1	30	—	—
	在宅で療養・生活する人とその家族の理解	1	1	15	メディカ出版	ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア
	地域での暮らしを支える看護	2	1	15	メディカ出版	ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術
	地域での暮らしを支える多職種連携	2	1	15	—	—
	地域での暮らしを支える看護実践プロセス I	2	1	15	メディカ出版	ナーシンググラフィカ 在宅看護論①
	地域での暮らしを支える看護実践プロセス II	2	1	15	学研メディカル秀潤社	ナーシンググラフィカ 在宅看護論② よくわかる在宅看護
	成人期の理解	1	1	30	医学書院	系統看護学講座 成人看護学総論 別巻 緩和ケア
	循環器・呼吸器の機能障害を持つ人の看護	2	1	30	医学書院	系統看護学講座 成人看護学 [2] [3]
	運動機能障害を持つ人の看護	2	1	15	学研メディカル秀潤社	系統看護学講座 成人看護学 [10]
	腎・泌・生殖系の機能障害を持つ人の看護	2	1	15	医学書院 南江堂 サイオ出版	系統看護学講座 成人看護学 [8]
	内分泌・栄養代謝機能障害を野つ人の看護	2	1	30	南江堂	系統看護学講座 成人看護学 [5] [6]
	生体防御・感覚機能障害を持つ人の看護	2	1	30		系統看護学講座 成人看護学 [4] [11] [13]
	成人の健康レベルに応じた看護	2	1	30	南江堂 医学書院	急性期看護 I・II 系統看護学講座 別巻 緩和ケア
	老年期の理解	1	1	30		
	老年看護の基本技術	1	1	15	医学書院	老年看護学 老年看護 病態・疾患論
	高齢者の健康レベルに応じた援助方法	2	1	30		
	老年期の患者の看護過程 事例展開	2	1	30	学研メディカル秀潤社 医学書院	疾患別看護過程の展開 看護診断ハンドブック
	子どもとその家族の理解	1	1	30		
	子どもの疾病と治療	2	1	15		
	子どもの健康問題と看護	2	1	30	医学書院	小児看護学概論 小児臨床看護総論
	疾病や障害をもつ子どもの看護	2	1	30		

分野	科目名	学年	単位	時間	出版社	書名
専門	母性の理解	1	1	15	医歯薬出版	母性看護学Ⅰ 概論
	妊婦の看護	2	1	30	医歯薬出版	母性看護学Ⅱ
	産婦の看護	2	1	30	メジカルフレンド社	看護実践のための根拠がわかる母性看護技術
	褥婦と新生児の看護	2	1	30	医歯薬出版	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程
	精神の健康の保持・増進	1	1	30	医学書院	精神看護の基礎 精神看護の展開
	社会の中の精神障害	2	1	30		
	精神の疾病と治療	2	1	15		
	精神に障害を持つ人への看護	2	1	30		
	看護管理	2	1	30	医学書院	看護管理
	医療安全	2	1	15	メジカルフレンド社	看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全
	総合看護の実践	3	1	30	メジカルフレンド社	看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全
	国際・災害看護	3	1	30	医学書院	災害看護学・国際看護学

基 礎 分 野

授業科目		心理学		担当者		木下 昌也		
区分	単位数	時間数	授業形態			履修年次・前/後期別		
	1	30	講義30			1年次 後期		
	実務経験	無						
	その実務経験を生かして行う教育内容							
授業の目標および授業計画	<p><目標> 心や行動に関する基本的な心理学の知見についてまなぶ。これらの知見について自分自身のこととして理解する。</p> <p><授業計画> 1回目 心理学とは 2回目 「見え」の世界 3回目 愛着①：親子関係の基盤 4回目 愛着②：愛着行動の発達と個人差 5回目 学習①：古典的条件づけ 6回目 学習②：オペラント条件づけ 7回目 学習③：罰について／社会的学習 8回目 学習④：行動療法 9回目 感情：情動の理論 10回目 動機づけ 11回目 欲求不満行動：転位行動と防衛機制 12回目 発達①：幼児期の特徴 13回目 発達②：児童期～青年期 14回目 発達③：青年期 15回目 復習／テスト</p>							
使用教材および参考文献	<p>テキスト： シリーズ医療の行動科学No.1. 「医療行動科学のためのミニマムサイコロジー」 北大路書房</p> <p>この他、参考資料を適宜配布する。</p>							
評価方法	筆記試験をおこなう。							
備考								

授業科目		倫理学		担当者	村若 修
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義30		2年次 前・後期
	実務経験	無			
	その実務経験を生かして行う教育内容				
授業の目標および授業計画	<p>目 標 人間の行為や道徳について理解し、人間の価値観の形成や尊重について学ぶ。</p> <p>授業計画</p> <p>1回 倫理学と「生命倫理」 2回 生命倫理の成立（1）患者の権利 3回 生命倫理の成立（2）インフォームド・コンセントの歴史 4回 生命倫理の成立（3）生命倫理の基本原則 5回 尊厳死（1）日本及び世界の状況 6回 尊厳死（2）倫理的考察 7回 安楽死（1）日本及び世界の状況 8回 安楽死（2）倫理的考察 9回 人工妊娠中絶 10回 生殖補助医療技術の利用（1）日本及び世界の状況 11回 生殖補助医療技術の利用（2）倫理的考察 12回 出生前診断（1）日本及び世界の状況 13回 出生前診断（2）倫理的考察 14回 脳死と臓器移植 15回 まとめ 終講テスト</p>				
	使用教材および参考文献	<p>テキスト：看護のための生命倫理 改訂三版 ナカニシヤ出版</p> <p>参考資料は適宜配布する</p>			
評価方法	筆記試験・レポート内容を中心に評価する				
備考					

授業科目		人間関係論		担当者	神菌 紀幸
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義30		1年次 前期
	実務経験	無			
	その実務経験を生かして行う教育内容				
授業の目標および授業計画	目 標				
	(1) 対人行動の基盤となる個人の心理的過程として；対人認知，帰属過程，対人魅力				
	(2) 対人行動として；自己開示，援助行動，攻撃行動，説得，対人コミュニケーション				
	(3) 対人関係の形成と発展・崩壊				
	(4) 社会的相互作用				
	(5) 集団過程；集団が個人に及ぼす影響，個人が集団に及ぼす影響，集合行動				
	回 授業内容				
	1回目 人間関係論の考え方 社会的相互影響過程①				
	2回目 //				
	3回目 小集団における社会的相互作用 家庭の分析 ①				
	4回目 //				
	5回目 対面的小集団における相互作用過程の体験				
	6回目 対人魅力の規定因				
	7回目 小集団における社会的合意形成プロセス				
	8回目 社会的行動の個人的基盤				
	9回目 社会的影響方略の応用				
10回目 小集団におけるコミュニケーションの変容過程					
11回目 小集団における社会的相互作用過程の観察とフィードバック					
12回目 情報処理プロセスと人間関係					
13回目 カウンセリング的関りの日常的人間関係への援用①					
14回目 //					
15回目 心の動きと人間関係 まとめ 評価テスト					
使用教材および参考文献	参考資料等は講義中，適宜配布する。				
	<参考文献> ・H. H. ケリー／J. W. ティボー著『対人関係論』誠信書房 1995 ・吉森 讓 編著『人間関係の心理学ハンドブック』北大路書房 1991 ・坂口 哲司 著『看護と保育のためのコミュニケーション』ナカニシヤ出版1991 ・加藤 豊比古 編著『人間行動の基礎と諸問題』福村出版 1992				
評価方法	筆記試験・レポートの成績を中心に評価する。				
備考					

授業科目		生活環境論		担当者	西留 清
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	15	講義15		1年次・前期
	実務経験	無			
	その実務経験を生かして行う教育内容				
授業の目標および授業計画	<p>授業目標 生活科学に対する基本的考え方についての概略を学び、生活と健康、室内環境、都市環境を中心に学習すると同時に安全で衛生的な環境を考慮した看護ができるようになる。</p>				
	回	内容			
	1回	生活環境論概要			
	2回	生活と健康	温暖化、オゾン層破壊、酸性雨		
	3回	都市環境	飲み水と健康	大気と健康	室内空気質と健康
	4回	〃	下水道システム	微生物を利用した下水処理	
	5回	〃	高度水処理	し尿の処理	都市における水利用
	6回	〃	水の循環	河川湖沼	土壌地下水 有機廃棄物
	7回	〃	水環境	大気	ごみ 室内環境 環境シミュレーション
8回	〃	環境アセスメント	ライフサイクル		
使用教材および参考文献	<p>テキスト：健康と環境の工学 「北海道大学工学部衛生環境工学コース 編」</p>				
評価方法	<p>出席状況 課題レポートの評価（提出状況・内容）</p>				
備考					

授業科目		論理学		担当者		永里 紘二		
区分	単位数	時間数	授業形態			履修年次・前/後期別		
	1	30	講義30			1年次 前期		
	実務経験	無						
	その実務経験を生かして行う教育内容							
授業の目標および授業計画	<p>授業目標 現代論理学の基礎をなす命題論理の意味論と証明論を学び、論理的な推論分析手法を学ぶことにより誤った思考、推論を廃して正しい思考を身に付けることを目指す。</p> <p>回 授業内容</p> <p>1回目 命題、逆裏、対偶 主観と客観について 2回目 命題、逆裏、対偶 割合について 3回目 日本的な発言を考える 数的処理能力 4回目 論理的に正しい発言 接続語の持つ意味 5回目 アーギュメントとステイトメントの違いについて 6回目 論理的な話し方の基礎をつくる 隠れた前提 7回目 日常的な会話の言外の意味 数的処理能力 8回目 直感的表現から分析的表現 オノマトペの活用 9回目 大雑把な表現を改める 10回目 立証責任の転嫁 二者択一 11回目 論理力の養成 12回目 数的処理 13回目 詭弁とレトリックについて 14回目 論理的に話すための助言 15回目 終講テスト</p>							
	使用教材および参考文献	講義資料は適宜プリントを配布する						
	評価方法	授業中の取り組み及び終講試験により評価する						
	備考							

授業科目		情報科学		担当者	宮田千加良
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義10・演習20		1年次 前期
	実務経験	無			
	その実務経験を生かして行う教育内容				
授業の目標および授業計画	<p>現代の情報化社会において必要不可欠な情報モラルやセキュリティに関して、発生しがちな問題に関する十分な知識を有するとともに、問題に対する正しい行動が行えるようになる。また、ワープロソフトや表計算ソフトを用いてレポートや報告書を含む様々な書類を効率的に作成が行えるようになる。更に、プレゼンテーションソフトを使った資料の作成、およびそれを用いた発表の仕方についての知識を有する。</p> <p>授業計画（内容）</p> <p>ブロック 1</p> <p>情報のモラルとセキュリティ(1)、WORDを使った文書作成(1)：基本的な文面作成 情報のモラルとセキュリティ(2)、WORDを使った文書作成(2)：ページ設定＋基本文書作成 情報のモラルとセキュリティ(3)、WORDを使った文書作成(3)：表の作成＋図・表文書作成 情報のモラルとセキュリティ(4)、WORDを使った文書作成(4)：2段組み＋ページレイアウト 情報のモラルとセキュリティ(5)、WORDを使った文書作成(5)：数式作成機能、纏め</p> <p>ブロック 2</p> <p>情報のモラルとセキュリティ(6)、EXCELを使ったデータ処理(1)：表の書式設定＋関数入力(1) 情報のモラルとセキュリティ(7)、EXCELを使ったデータ処理(2)：グラフ作成と編集(1) 情報のモラルとセキュリティ(8)、EXCELを使ったデータ処理(3)：グラフ作成と編集(2) 情報のモラルとセキュリティ(9)、EXCELを使ったデータ処理(4)：データベース処理＋関数入力(2) 情報のモラルとセキュリティ(10)、EXCELを使ったデータ処理(5)：WORDとの連携、纏め</p> <p>ブロック 3</p> <p>情報発信（ホームページ&プレゼンテーション）の違い、PowerPointによるプレゼン資料の作成(1) PowerPointによるプレゼン資料の作成(2)：テーマを決めて情報収集＋資料作成 PowerPointによるプレゼン資料の作成(3)：アニメーション機能、リンク機能を用いた資料編集 PowerPointによるプレゼン資料の作成(4)：作成した資料を使った発表の仕方 ここまでの授業内容の総纏め、試験</p>				
使用教材および参考文献	<p>教科書</p> <p>富士通エフ・オー・エム株式会社 2016 『情報リテラシー<改訂版> 情報モラル&情報セキュリティ収録 Windows10/Edge/Word2016/ Excel2016/PowerPoint2016』(FPT1715) FOM出版, ¥2,000＋税 (ISBN978-4-86510-344-1)</p> <p>使用教材</p> <p>USBメモリ（学校側で一括購入したものに課題用のデータを入れ、授業開始時に配布する） その他、適宜プリントを配布する</p>				
評価方法	<p><方法> 課題提出&授業態度（30%）、小テスト（30%）、最終テスト（40%） 小テスト（持ち込み可）は2回実施し、実施後に解答を配布する。 最終テストは小テストの内容を基に作成し、持ち込み不可で実施する。</p> <p><基準> 100点満点で60点以上取得を単位取得の条件とする。</p>				
備考					

授業科目		教育学		担当者	岩橋法雄
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義30		1年次 後期
	実務経験	無			
	その実務経験を生かして行う教育内容				
授業の目標および授業計画	<p>授業目標</p> <p>看護師は優れた教育者であることを理解する。それは相手が人に対する行為そのものを中核におく生業とする専門職者だからである。学校教師もその側面を有するが、看護師は学校教師ではない。そこに最初から学校教育から解放された教育の本質を体現できる存在である。このことの理解を基本にして教育への理解を深めることを目標とする。</p>				
	< 回 >	< 内容 >			
	1回目	看護師は高度で深い教養の担い手である ナイチンゲールの果たした役割、看護教育制度の歴史から学ぶ			
	2回目	考えることを学び実践する：常識を疑う習慣を身につける			
	3回目	発達 (1)：人の発達を考える 赤ちゃん学を見直す			
	4回目	発達 (2)：ことばの発達を考える／人にとって「言葉」とは？			
	5回目	発達障害を考える (1)			
	6回目	発達障害を考える (2)			
	7回目	教育とは：教育の概念			
	8回目	西洋教育思想史から学ぶ (1)：教育の思想は時代社会の反映 ルソー (エミール) とペスタロッチ (ゲルトルート) を中心に			
	9回目	西洋教育思想史から学ぶ (2)：コメニウス、オウエン、フレーベル、 モンテッソリーなど上記 (1) 以外の教育思想			
	10回目	戦後世界の教育と子どもの権利			
	11回目	ユネスコ・学習権宣言について			
	12回目	今ひとたび医療・看護と教育 「一条校」問題とその克服			
	13回目	生涯学習の意味：教授から学びへ			
14回目	総復習と質問・討議				
15回目	終講試験				
使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 基礎分野 教育学 医学書院2022年</p> <p>参考文献：授業の進行に合わせて適宜紹介する</p>				
評価方法	<p>授業への参加状況と終講テスト。</p> <p>適宜課すレポート、小テストを加味する。</p>				
備考	<p>教育学の内容に関連しているので、希望があればシラバスを少し変更して、映画の視聴も考えている。「メリーポピンズ」「ドレミの歌」などから一つ選択。</p>				

授業科目		文学		担当者		松田 信彦	
区分	単位数	時間数	授業形態			履修年次・前/後期別	
	1	30	講義30			1年次 後期	
	実務経験	無					
	その実務経験を生かして行う教育内容						
授業の目標および授業計画	<p>授業の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本の古典文学に親しみ、その意義を知る。 2) 文章の音読・黙読を通して、作品に親しむことができる。 3) 現代語約や解説を聞いて内容や作品の世界を理解できる。 4) 理解した内容について、自分なりの意見や感想が述べられる。 5) 基本的な日本語リテラシー（読み・書き能力）を向上させる。 <p>1回目 古事記概説 2回目 国生み神話 3回目 神生み神話と黄泉の国 4回目 黄泉の国と呪的逃走 5回目 三貴子の出生とうけひ 6回目 八俣の大蛇神話 7回目 稲羽の素戔 8回目 根の堅州国 9回目 八千矛の神語 10回目 天若日子神話 11回目 国譲り神話 12回目 天孫降臨神話 13回目 コノハナサクヤヒメとの婚姻 14回目 海幸・山幸神話 15回目 終講試験</p>						
使用教材および参考文献	<p>神話についてのテキストおよび参考資料は、授業時にプリントを配布する。 日本語（漢字）の演習については以下のテキストを使用する。</p> <p>尚文出版：改訂版 漢字とことば 国語学習課題</p>						
評価方法	終講試験（70%）および小テスト（30%）で評価する。						
備考							

授業科目		コミュニケーション論		担当者	近藤 諭
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	15	講義15		1年次 前期
	実務経験	無			
	その実務経験を生かして行う教育内容				
授業の目標および授業計画	<p>授業の目標</p> <p>私たちが生活を営む社会は、コミュニケーションで成り立っています。本科目では、社会生活を送る上で必要なコミュニケーションスキルの重要性を理解し、方法を学ぶことを目標とします。</p> <p>内容としては、社会学の視野で研究されてきたコミュニケーションに対する考え方を下敷きとして、基本的な知識と視野を獲得します。</p> <p>授業計画</p> <p>1回目 コミュニケーションが「伝わる」とはどういうことか 1 そもそもコミュニケーションが成り立つとはどういうことかを考えます。</p> <p>2回目 コミュニケーションが「伝わる」とはどういうことか 2 コミュニケーションを的確に表すモデルには何があるのかについて考えます。</p> <p>3回目 コミュニケーションを成立させる条件について 1 コミュニケーションを支える物理的側面について考えます。</p> <p>4回目 コミュニケーションを成立させる条件について 2 コミュニケーションを支える認知的側面について考えます。</p> <p>5回目 三者関係のコミュニケーション 2者間と3者間でのコミュニケーションの違いを考えます。</p> <p>6回目 ダブルバインド状況のコミュニケーション 矛盾に満ちたコミュニケーションについて考えます。</p> <p>7回目 コミュニケーションが求められる背景 コミュニケーション力ってなぜ必要とされるのかを考えます。</p> <p>8回目 終講試験</p>				
使用教材および参考文献	<p>テキスト：使用しない。配布するプリントを使用します。</p> <p>参考文献：E. ゴフマン『行為と演技』1974年、誠信書房（ISBN4414518016）ほか</p>				
評価方法	授業内の小課題および終講試験で評価を行います。				
備考					

授業科目		物理学		担当者	野澤宏大																
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別																
	1	15	講義15		1年次 前期																
	実務経験	無																			
	その実務経験を生かして行う教育内容																				
授業の目標および授業計画	<p>授業の目標 看護活動におけるさまざまな行動、現象の根拠を理解する。</p> <p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>自然界、人体のメカニズムと物理学</td> </tr> <tr> <td>2・3回目</td> <td>看護ボディメカニクスの物理</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>身近な圧力</td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td>呼吸器と吸引の物理</td> </tr> <tr> <td>6回目</td> <td>循環器の物理</td> </tr> <tr> <td>7回目</td> <td>点滴静脈内注射の物理</td> </tr> <tr> <td>8回目</td> <td>まとめ（試験を含む）</td> </tr> </tbody> </table>					回	内容	1回目	自然界、人体のメカニズムと物理学	2・3回目	看護ボディメカニクスの物理	4回目	身近な圧力	5回目	呼吸器と吸引の物理	6回目	循環器の物理	7回目	点滴静脈内注射の物理	8回目	まとめ（試験を含む）
回	内容																				
1回目	自然界、人体のメカニズムと物理学																				
2・3回目	看護ボディメカニクスの物理																				
4回目	身近な圧力																				
5回目	呼吸器と吸引の物理																				
6回目	循環器の物理																				
7回目	点滴静脈内注射の物理																				
8回目	まとめ（試験を含む）																				
使用教材および参考文献	テキスト：看護学生のための物理学 第6版 医学書院																				
評価方法	終講試験による																				
備考																					

授業科目	社会学		担当者	近藤 諭
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義15	1年次 前期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	<p>【授業の目標】 本科目は、社会と人間の関係性を理解し、社会を理解した人間となる必要があることを学ぶことを目標とします。社会とは、複数の人びとのつながりを可能にするとともに、そのつながりによって成り立っている存在です。単なる「ルール」の集合とも言えそうで、それだけでなく、社会の存在によって私たちが支えられているという、社会と個人のあり方について考えることがこの科目で学ぶ内容です。</p> <p>1回目 社会とは何か 社会とは耳にする機会が多いけどそもそも何なのかを考えます。</p> <p>2回目 社会学の2つの方法 社会の捉え方は様々ですが2つの代表例を取り上げます。</p> <p>3回目 個人、役割、組織 社会と人間の間を捉えるための社会学固有の視点を扱います。</p> <p>4回目 現代家族の諸相 1 現代社会における家族とはどのような集団かを今一度考えてみましょう。</p> <p>5回目 現代家族の諸相 2 世帯に注目すると社会が捉えやすくなることと、医療との関係も見えてきます。</p> <p>6回目 社会の中の逸脱 社会にとって犯罪・逸脱とされる現象について扱います。</p> <p>7回目 現代社会の行く末 現在の日本社会の現状を今一度考えてみましょう。</p> <p>8回目 終講試験</p>			
使用教材および参考文献	<p>テキスト：使用しない。 配布するプリントを使用する。</p>			
評価方法	<p>授業内の小課題および終講試験で評価を行います。</p>			
備考				

授業科目		ボランティア論		担当者	財部マチ子
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	15	講義15		1年次 前期
	実務経験	無			
	その実務経験を生かして行う教育内容				
授業の目標および授業計画	<p>授業の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアの特性である「主体性」「公共性」「無償性」の意味を理解し、ボランティア活動の役割、課題を理解できる。 2. ボランティア活動に参画する意欲を持つ、あるいは活動のきっかけを掴む。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 ボランティアとは何か。 人はなぜボランティア活動をするのか 2回目 ボランティア活動の現状と課題 ボランティアと現代社会 3回目 日本におけるボランティアの普及・推進の歩み 4回目 人と人とのかかわり 児童・障害者・高齢者 5回目 地域社会のボランティア活動 6回目 災害とボランティア活動 国際ボランティア活動 7回目 ボランティア活動の可能性と展望 地域社会に出かけよう 8回目 まとめ 				
使用教材および参考文献	テキスト：ボランティア論 「広がり」から「深まり」へ (株)みらい				
評価方法					
備考					

授業科目	ボランティア実践		担当者	財部マチ子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義15	3年次 後期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	<p>授業の目標 ボランティアの実践活動をすることで「援助し、援助される関係」を体験し、「ともに生きる」ボランティア活動を理解する。</p> <p>授業計画</p> <p>1回目 ボランティア活動の基礎知識 ボランティアする側とされる側について/安全対策</p> <p>2回目 ボランティア活動の基礎知識 マナーと活動のための留意点</p> <p>3～5回目 ボランティア活動実践のまとめ 活動計画書、活動報告書をレポート</p> <p>6～7回目 活動報告会 まとめ</p> <p>8回目 「ボランティア論」・「ボランティア実践」のまとめをレポートする</p>			
使用教材および参考文献	テキスト：ボランティア論 「広がり」から「深まり」へ みらい			
評価方法	出席状況、レポート内容（活動計画書・活動報告書・まとめレポート）の評価による			
備考				

授業科目		医療英語		担当者	佐藤 哲三	
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別	
	1	30	講義30		3年次 後期	
	実務経験	無				
	その実務経験を生かして行う教育内容					
授業の目標および授業計画	<p>目標</p> <p>I. 看護および看護に関連する英文文献を解読する能力を養う。</p> <p>II. 医療情報や医療文献を解読、表現する能力を養う。</p> <p>回 内容</p> <p>1回 English Primer: Units 1-2, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>2回 English Primer: Units 3-4, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>3回 English Primer: Units 5-6, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>4回 English Primer: Units 7-8, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>5回 English Primer: Units 9-10, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>6回 English Primer: Units 11-12, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>7回 English Primer: Units 13-14, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>8回 English Primer: Units 15-16, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>9回 English Primer: Units 17-18, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>10回 English Primer: Units 19-20, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>11回 English Primer: Units 21, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>12回 English Primer: Units 22, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>13回 English Primer: Units 23, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>14回 English Primer: Units 24, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>15回 総まとめ (テストも含む)</p>					
	使用教材および参考文献	テキスト: First Primer 佐藤哲三 編著者 (東京: 南雲堂)				
		プリント: 医療英語, 英語の歌 (英国国歌も含む)				
	評価方法	試験, レポート, 出席を含む平常点による総合評価				
	備考					

授業科目		健康と運動		担当者	東芦谷 薫
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	演習30		2年次 前・後期
	実務経験	有		健康運動指導士	
	その実務経験を生かして行う教育内容 心身ともに健康的な身体作りを行う。 日常的に出来る運動を習得すると共に運動の必要性を理解、身体を動かすことの楽しさを広く伝える。				
授業の目標および授業計画	<p>目標 ストレッチ・レクリエーション等の技術を学び、職場で活用できる技能を身につける。 社会生活に必要な「協調性・自主性」を集団運動の中で養い、総合的な自己能力の向上を図る。</p> <p>回 内容</p> <p>1回目 ストレッチ体験 2人組ストレッチ指導</p> <p>2回目 ストレッチ体操 ストレッチ指導練習 筋膜リリース法</p> <p>3回目 ストレッチ体操 ストレッチ指導練習 バランストレーニング</p> <p>4回目 ストレッチ体操 ストレッチ指導練習 コアトレーニング</p> <p>5回目 チェアストレッチ体操 ストレッチ指導練習 ラダーを用いた歩行トレーニング</p> <p>6回目 ストレッチ体操 ストレッチ指導練習 ストレッチポール</p> <p>7回目 ストレッチ体操 ストレッチ指導練習 ニュースポーツ</p> <p>8回目 ストレッチ体操 ストレッチ指導練習 体力測定</p> <p>9回目 ストレッチ資料説明 ストレッチ作成</p> <p>10回目 ストレッチ体操 インボディ測定</p> <p>11回目 ストレッチ発表</p> <p>12回目 ストレッチ発表 サーキットトレーニング</p> <p>13回目 ストレッチ発表 縄跳び 長縄跳び</p> <p>14回目 ストレッチ体操 ストレッチポール</p> <p>15回目 ストレッチ体操 ニュースポーツ 筋膜リリース</p>				
使用教材および参考文献	<p>運動に必要な道具については随時準備 教材については、市町村運動指導にて使用している資料を使用</p>				
評価方法	<p>・出席、授業態度、レポート、自主性・協調性による総合評価</p>				
備考					

專 門 基 礎 分 野

授業科目		細胞・骨・筋肉の構造と機能		担当者	田島喜久夫
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	15	講義15		1年次・前期
	実務経験	有		看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 身体の構造、細胞の構造と機能 各器官系統の持つ働き 骨格・筋の機能				
授業の目標および授業計画	身体の構造を理解する。人間にとって各器官系統の持つ働きの意味を理解する。 特に骨格・筋系についての構造と機能を理解する。 回 内容 I 1回 解剖生理の基礎 2回 細胞の構造と機能・人体を構成する組織 3回 人体の構造区分 4回 全身の骨格 骨・関節の構造 5回 全身の筋 筋の機能 6回 骨格筋の収縮機構 7回 不随意筋の収縮 8回 試験				
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 人体の構造と機能 1 医学書院 ビデオ、模型などを参考に講義				
評価方法	基本的には出席状況と終講試験				
備考					

授業科目		呼吸・循環・血液・体温調節の構造と機能	担当者	田島喜久夫・中河志朗
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義30	1年次 前期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	<p>呼吸器・循環器系の構造を理解し、生命現象の基本としての認識の上に、呼吸・循環の働きについて両者を関連づけて理解する。身体機能の防御と適応について理解する。</p> <p>I</p> <p>1回 呼吸器の解剖と生理 2回 呼吸と呼吸運動 3回 ガス交換 呼吸運動の調節 4回 循環器 心臓, 心電図 5回 循環器系 心周期 6回 循環器系 血管 7回 循環器系 血圧 8回 循環器系 血圧調節, 微小循環 9回 循環器 病態生理</p> <p>II</p> <p>1回 血液、血漿、造血器官 2回 赤血球、白血球(顆粒球) 3回 無顆粒白血球、血小板、血液凝固と線維素溶解 4回 身体の防御に関与する主な器官 5回 自然免疫、獲得免疫 6回 腸粘膜での防御の仕組み、皮膚の構造・働きと防御系の仕組み 7回 体温とその調節</p>			
使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 人体の構造と機能 1 医学書院 ビデオ, 模型などを参考に講義</p>			
評価方法	<p>基本的には出席状況と終講試験 終講試験評価 I : 60% , II : 40%とする。</p>			
備考				

授業科目		消化器・内分泌の構造と機能	担当者	作田 哲也・田島喜久夫
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義30	1年次 前期・後期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	<p>I 消化器系の構造を理解し、消化・吸収のしくみについて理解する。 II 生体内外の環境の変化に対応する自律神経とホルモンの作用について理解する。</p> <p>〈内 容〉</p> <p>I. 消化器系 1回目 消化管総論 2回目 大腸の構造と機能 3回目 小腸の構造と機能 4回目 肝臓・胆のう・膵臓の構造と機能 5回目 胃の構造と機能 6回目 食道・咽頭・口腔の構造と機能</p> <p>II. 内分泌 1回 内臓機能の調節 自律神経系：交感神経 2回 内臓機能の調節 自律神経系：副交感神経 3回 自律神経伝達物質とホルモンの受容体 4回 内分泌系：ホルモンの化学構造と作用機序 5回 内分泌系：視床下部・下垂体ホルモン 6回 内分泌系：甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン 7回 内分泌系：膵臓ホルモン、副腎ホルモン 8回 内分泌系：性腺ホルモン、その他の内分泌腺 9回 内分泌系：ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節の実際</p>			
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 人体の構造と機能 1 医学書院			
評価方法	I (40%) : 毎回の講義において行う小テストと終講試験の成績による II (60%) : 終講試験の成績による			
備考				

授業科目		腎・泌尿器・生殖器の構造と機能	担当者	作田哲也
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義30	1年次・前期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	目 標			
	1. 腎・泌尿器の構造を理解し、排泄の仕組みについて理解する。 2. 体液の調節を理解する。 3. 生殖器の構造と機能を理解する。			
授業の目標および授業計画	内 容			
	1～2回 : 腎臓の構造と機能 3～4回 : 排尿のしくみと尿の生成 5～6回 : 腎臓におけるろ過と再吸収 7～8回 : 尿量の調節 9～10回 : 酸・塩基平衡調節 11回 : イオン調節 12回 : 腎臓と他の臓器との関連 13回 : 生殖器の構造 14回 : 生殖器の機能 15回 : 終講試験			
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 人体の構造と機能 1 医学書院 ビデオ，模型などを参考に講義			
評価方法	毎回の講義において行う小テストと終講試験の成績による。			
備考				

授業科目		脳神経・感覚器の構造と機能		担当者	田島喜久夫
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義30		1年次・後期
	実務経験	無			
	その実務経験を生かして行う教育内容				
授業の目標および授業計画	<p>目標 神経系の構造・機能を理解し、外界の刺激を受容する仕組みや各刺激に応じた反応の仕組みを理解する。</p> <p>回数 内容</p> <p>1回目 情報の受容と処理 神経系の構造と機能</p> <p>2回目 興奮の伝達 神経系の構造</p> <p>3回目 脊髄・脳幹の構造</p> <p>4回目 小脳・感覚・大脳</p> <p>5回目 新皮質の機能</p> <p>6回目 脳神経と脊髄神経 脊髄神経の構造と機能</p> <p>7回目 脳神経 脳波と睡眠</p> <p>8回目 高次機能 記憶・本能行動・情動行動</p> <p>9回目 中枢神経系の障害 運動ニューロン、下行性伝導路</p> <p>10回目 上行性伝導路 感覚器系</p> <p>11回目 感覚器 視覚器</p> <p>12回目 感覚器 視覚</p> <p>13回目 感覚器 聴覚</p> <p>14回目 感覚器 平衡覚 味覚 嗅覚</p> <p>15回目 感覚器 疼痛</p>				
使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 人体の構造と機能 1 医学書院</p> <p>ビデオ，模型などを参考に講義</p>				
評価方法	出席と終講試験による。				
備考					

授業科目		栄養学		担当者	隈元羊子
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	15	講義15		1年次・前期
	実務経験	有		管理栄養士	
	その実務経験を生かして行う教育内容 栄養の意義 臨床栄養				
授業の目標および授業計画	目標 健康にとっての栄養の意義と臨床栄養について理解する。				
	回	内容			
	1回目	栄養学の基礎 栄養素の種類とはたらき他			
	2回目	食事と食品 栄養ケアマネジメント 栄養状態の評価・判定①			
	3回目	栄養状態の評価・判定② ライフステージと栄養			
	4回目	生活習慣病予防対策と特定健診・特定保健指導 糖尿病の栄養食事療法他			
	5回目	臨床栄養①			
	6回目	臨床栄養②			
	7回目	臨床栄養③ 他			
8回目	まとめ 終講試験				
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 人体の構造と機能 3「栄養学」 医学書院				
	参考文献：糖尿病食品交換表 日本糖尿病学会編 文光堂 腎臓病食品交換表 浅野誠一／吉利 和 監修 医歯薬出版株式会社				
評価方法	出席状況と終講試験				
備考					

授業科目		生化学		担当者	作田哲也
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	15	講義15		1年次・前期
	実務経験	無			
	その実務経験を生かして行う教育内容				
授業の目標および授業計画	<p>目標</p> <p>生体を構成する物質の代謝と、生体の恒常性維持機能を理解するとともに、疾病との関連を学ぶ。また、生化学が医療、看護の実践や理論の基本として存在することを認識し、これからの医療高度化の中で、科学的根拠に基づいた看護を行うための基本知識および思考法を身につける。</p>				
	回	内容			
	1回目	生化学ガイダンス			
		糖質代謝 (1) 糖の分類とエネルギー産生			
	2回目	糖質代謝 (2) 糖鎖の役割			
		糖質代謝 (3) 糖代謝調節			
	3回目	脂質代謝 (1) 脂質の役割と種類			
		脂質代謝 (2) 脂質の消化と体内移動			
	4回目	脂質代謝 (3) アセチルCoAと β (ベータ) 酸化			
	脂質代謝 (4) 糖新生とコレステロールの合成				
	脂質代謝 (5) ケトン体の生成と脂肪酸の合成				
	脂質代謝 (6) アラキドン酸代謝				
5回目	アミノ酸代謝 (1) タンパク質の機能と消化				
	アミノ酸代謝 (2) 尿素回路とアミノ基転移反応				
	アミノ酸代謝 (3) 糖新生と生体活性物質の合成				
6回目	遺伝情報 (1) 代謝のまとめ、DNAの複製と体細胞分裂				
7回目	遺伝情報 (2) 減数分裂、RNAの転写とタンパク質の翻訳				
8回目	終講試験				
使用教材および参考文献	<p>テキスト：「ナーシング・グラフィカ 臨床生化学 人体の構造と機能②」 第5版 (メディカ出版) ISBN 978-4-8404-6128-3</p> <p>：「生化学 からだの不思議を解き明かす」 (株式会社 じほう) ISBN 978-4-8407-4500-0</p>				
評価方法	毎回の授業において行う小テスト・レポートと終講試験による。				
備考					

授業科目	薬理学総論		担当者	兜坂 智浩
区分	単位数	時間数	授業形態	
	1	15	講義15	
	実務経験	有		薬剤師
	その実務経験を生かして行う教育内容 薬物の薬理作用及び人体への影響			
授業の目標および授業計画	<p>目標：薬物についての概念や薬理学についての基本的事項、即ち薬物の薬理作用および人体への影響を理解する。</p> <p>〈 回 〉 〈 内容 〉</p> <p>1回目 薬理学とはなにか 2回目 薬力学 3回目 薬物動態学 4回目 薬物相互作用 5回目 有益性と危険性 6回目 薬と法律 新薬の開発 7回目 添付文書 8回目 終講テスト</p>			
使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院</p>			
評価方法	<p>基本的には終講試験の成績による。</p>			
備考				

授業科目	臨床薬理学		担当者	兜坂智浩
区分	単位数	時間数	授業形態	
	1	30	講義30	
	実務経験	有		薬剤師
	その実務経験を生かして行う教育内容 臨床で用いるおもな薬物の薬理作用			
授業の目標および授業計画	目標：臨床で用いられている主な薬物について、その薬物の作用を理解する。			
	〈 回 〉 〈 内容 〉			
	1回目	抗感染症薬	その1	
	2回目	抗感染症薬	その2	
	3回目	抗がん剤		
	4回目	免疫治療薬		
	5回目	抗アレルギー薬、抗炎症薬		
	6回目	末梢神経に作用する薬		
	7回目	中枢神経に作用する薬	その1	
	8回目	中枢神経に作用する薬	その2	
	9回目	心臓、血管に作用する薬	その1	
	10回目	心臓、血管に作用する薬	その2	
	11回目	呼吸器、消化器、生殖器系に作用する薬物	その1	
	12回目	呼吸器、消化器、生殖器系に作用する薬物	その2	
	13回目	薬物代謝に作用する薬物		
	14回目	皮膚科用薬、眼科用薬、救急薬		
15回目	漢方薬、消毒薬			
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院 疾病の成り立ちと回復の促進 [2] 病態生理学 医学書院 参考文献：適宜提示する			
評価方法	基本的には終講試験の成績による。			
備考				

	授業科目	微生物	担当者	多田 亮平
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義15	1年次・前期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	目標：微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解する。			
	〈回〉 〈 内容 〉 1～2回目 1. 微生物の基礎 細菌、真菌、原虫、ウイルス 3回目 2. 感染症の成り立ち 経路、機構 4回目 3. 外毒素・内毒素, 感染防御 5回目 4. 感染防御, 自然免疫・獲得免疫：液性免疫・細胞性免疫 6回目 5. ワクチン, 7回目 6. 感染症の治療 8回目 終講テスト			
使用教材および参考文献	テキスト：臨床微生物・医動物 疾病の成り立ちと回復の促進③ メディカ出版			
評価方法	基本的には出席状況と終講試験			
備考				

授業科目		治療総論		担当者		風呂井 彰	
区分	単位数	時間数	授業形態			履修年次・前/後期別	
	1	15	講義15			2年次・前期	
	実務経験	有		医師			
	その実務経験を生かして行う教育内容 身体におきている疾患や症状に対する治療法						
授業の目標および授業計画	目標 おもな疾患に対する治療法について理解する。						
	回	内容					
	1回目	医学における治療技術					
	2回目	放射線療法 目的・種類と実際・放射線障害と放射線防護					
	3回目	低侵襲治療法 1) 内視鏡治療 2) カテーテル治療					
	4回目	手術療法 1) 診断法：放射線検査，内視鏡検査，超音波検査					
	5回目	手術療法 麻酔とは					
	6回目	手術療法 腫瘍の外科治療					
	7回目	がん治療 化学療法					
8回目	終講試験						
使用教材および参考文献	テキスト：新体系看護学全書 別巻 治療法概説 メヂカルフレンド社						
評価方法	基本的には出席状況と終講試験						
備考							

授業科目		呼吸・循環器系の 疾病と治療	担当者	森山ゆきみ 吉川美代子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義	1年次後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 呼吸器の疾患の病態と治療・検査 循環器の疾患の病態と治療・検査			
授業の目標および授業計画	授業目標 循環器・呼吸器系の疾患の病態と検査・治療について理解する。			
	授業内容			
	[循環器]			
	第1回	循環器の解剖と生理	先天性心疾患	血圧異常（高血圧症）
	第2回	動脈硬化・動脈瘤・大動脈解離		
	第3回	心不全 薬物療法		
	第4回	虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）		
	第5回	循環器疾患に必要な検査、心臓カテーテル検査・治療		
	第6回	心臓弁膜症・心筋症		
	第7回	不整脈・心電図・ペースメーカー		
[呼吸器]				
第1回	呼吸器の主な検査			
～2回	気管支炎・肺炎の病態生理・診断・治療			
第3回	間質性疾患・塵肺の病態生理・診断・治療			
第4回	肺結核の病態生理・診断・治療			
第5回	COPDの病態生理・診断・治療			
第6回	肺血栓塞栓症の病態生理・診断・治療			
	呼吸不全（呼吸不全・肺性心）の病態生理・診断・治療			
第7回	肺高血圧、過換気症候群の病態生理・診断・治療			
	気胸の病態生理・診断・治療			
	～8回 肺の腫瘍の病態生理・診断・治療（化学療法・放射線療法）			
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕 呼吸器 成人看護学〔3〕 循環器 医学書院			
	ビデオ，スライド，模型などを参考に講義 適宜資料を配布する。			
評価方法	循環器 50% 呼吸器 50%の評価 終講試験、課題、講義への参加度などで評価する。			
備考	専門基礎；呼吸・循環の構造と機能、専門；患者を正しく診る技術（フィジカルアセスメント）の復習を十分にして講義に臨むこと			

	授業科目	運動器系の疾病と治療	担当者	富吉良子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義15	1年次・後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 運動器の疾患の特徴と治療・検査			
授業の目標および授業計画	目標	運動器の疾患の特徴と治療・検査について理解する		
	授業計画			
	1回目	骨折とは	人体の骨の名称の確認テスト	
		骨折の分類 治療 治癒経過 症状 合併症		
	2回目	各種の骨折		
	3回目	それぞれの骨折の特徴と治療法 大腿頸部骨折について	課題：大腿頸部骨折について	
	4回目	分類 治療 治癒経過 合併症 脊髄・脊柱の疾患 腰椎椎間板ヘルニアについて	課題：腰椎ヘルニアについて	
	5回目	脊髄・脊柱の疾患	課題：神経損傷	
	6回目	関節の疾患 神経損傷	課題：骨腫瘍	
7回目	骨腫瘍・骨粗鬆症			
8回目	終講テスト			
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 専門 成人看護学 [10] 「運動器」 医学書院			
評価方法	終講時の試験 と 小テスト 課題の提出状況			
備考				

授業科目	消化器・内分泌系の 疾病と治療	担当者	森山 ゆきみ
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	30	講義30
	実務経験	有	看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 消化器・内分泌系の疾患の病態と治療・検査		
授業の目標および授業計画	<p>目標 消化器・内分泌の疾患の病態と治療・検査について理解する。</p> <p>第1回 下垂体疾患の病態生理・診断・治療 第2回 甲状腺疾患・副甲状腺（上皮小体）疾患の病態生理・診断・治療 第3回 副腎疾患の病態生理・診断・治療 第4回 糖尿病の病態生理・診断・治療 ～7回 高尿酸血症・痛風、脂質異常症 第8回 消化器疾患の症状とその病態生理 第9回 食道がんの病態生理・診断・治療 第10回 食道アカラシア、胃食道逆流症、胃・十二指腸潰瘍、胃がん ～11回 潰瘍性大腸炎、クローン病の病態生理・診断・治療 第12回 腸閉塞・大腸がんの病態生理・診断・治療 第13回 胆石症・膵臓疾患（膵炎・膵がん）の病態生理・診断・治療 ～14回 第15回 肝炎・肝硬変の病態生理・診断・治療</p>		
	使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕 消化器 〔6〕 内分泌・代謝 医学書院</p> <p>適宜資料を配布する。</p>	
評価方法	終講試験 : 80% TBLや課題等 : 20%		
備考	消化器・内分泌の構造と機能、病態学総論についての知識が必要。		

授業科目	腎・泌尿器・生殖器の 疾病と治療	担当者	福元和彦・吉原 剛 白石 睦
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	30	講義30
	実務経験	有	医師・看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 腎・泌尿器・生殖器系の疾患の病態と治療・検査		
授業の 目標 および 授業 計画	目標 腎・泌尿器・生殖器系の疾患の病態と治療・検査について学ぶ。		
	回	内容	
	I		
	1回目	腎泌尿器の総論	
	2回目	腎不全 腎代替療法 糸球体腎炎	
	3回目	泌尿器悪性腫瘍 腎癌, 前立腺癌, 膀胱癌他	
	4回目	排尿障害 前立腺肥大 過活動膀胱 導尿	
	5回目	尿路感染症 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎など	
	6回目	先天性疾患 性について	
	7回目	まとめ ストーマ	
	8回目	腎不全 透析の原理	
	9回目	糖尿病と腎不全, 透析療法 内シャント シャントの合併症 血液透析の合併症について	
	II		
	10回目	女性生殖器の構造と機能、診察・検査・処置	
	11回目	月経異常と月経随伴症状の検査・治療・看護	
	12回目	性感染症の検査・治療・看護	
13回目	子宮腫瘍の検査・治療・看護		
14回目	卵巣腫瘍の検査・治療・看護		
15回目	乳房腫瘍の検査・治療・看護		
使用 教材 および 参考 文献	テキスト：専門 系統看護学講座 成人看護学〔8〕 腎臓・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔9〕 女性生殖器 医学書院 臨床病態学 総論 ヌーベル・ヒロカワ ビデオ, スライド, 模型などを参考に講義		
評価 方法	出席状況, 小テスト, 終講試験 I 70% , II 30% の評価とする。		
備考			

授業科目	血液・脳神経系の 疾病と治療		担当者	中河志朗・村永文学
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義30	2年次・前期
	実務経験	有	医師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 血液・造血器系, 脳・神経系の疾患の病態と治療・検査			
授業の目標および授業計画	<p>血液・造血器系, 脳・神経系の疾患の病態と治療・検査を理解する。</p> <p>I</p> <p>1回目 赤血球系の異常 (1) 貧血の原因、分類 2回目 赤血球系の異常 (2) 貧血 3回目 白血球系の異常 (1) 白血球減少・増加の原因 4回目 白血球系の異常 (2) 白血病 5回目 リンパ球系の異常 6回目 血液凝固系の異常、血栓、出血傾向 7回目 血小板の異常、輸血</p> <p>II</p> <p>8回目 脳・神経系の構造と機能 9回目 脳・神経系の構造と機能 10回目 症状とその病態生理 11回目 検査・診断と治療処置 12回目 疾患の理解 13回目 疾患の理解 14回目 疾患の理解 15回目 疾患の理解 16回目 終講テスト</p>			
使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門 成人看護学 [4] 血液・造血器 [7] 脳神経 医学書院</p> <p>ビデオ, スライド, 模型などを参考に講義</p>			
評価方法	<p>基本的には出席状況と終講試験 I 50% , II 50% の評価とする</p>			
備考				

授業科目		保健医療論		担当者	鈴木敏子	
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別	
	1	15	講義15		1年次・前期	
	実務経験	有		看護師		
	その実務経験を生かして行う教育内容 1. 現代の健康問題と医療 2. 医療の高度化に伴う医の倫理					
授業の目標および授業計画	<p>授業の目標 保健・医療の概念と動向を知り、現代における保健・医療の課題と問題点について理解を深める。</p> <p>回 授業内容</p> <p>1回 世界の健康問題を知り、国際的視点で健康について考える 世界の平均寿命、難民、テロ、災害医療について学ぶ。</p> <p>2回 先進国の医療制度を知り、利点と問題点を考える。 医の倫理の歴史的経緯について学ぶ。</p> <p>3回 日本の健康問題を知り、健康について考える。 医療制度について学び、問題点を理解する。</p> <p>4回 医療事故の事例等から、医療安全について学ぶ。 情報開示の必要性和個人情報について学ぶ。</p> <p>5回 現代医療の問題点を知る。 無医地区・救急医療について考える。</p> <p>6回 高度医療の問題点を知る。 延命治療と安楽死について考える。</p> <p>7回 医の倫理について考える。 遺伝子診断・体外受精・代理懐胎について学ぶ</p> <p>8回 終講試験</p>					
使用教材および参考文献	<p>テキスト： 参考文献は適宜提示する。 必要時 資料を配布する。</p>					
評価方法	レポート内容と提出	20点	出席状況・授業態度	10点	終講テスト	70点
備考						

授業科目	社会福祉論		担当者	勝 智樹
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義15	1年次・後期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	<p>目標 社会福祉の概念・歴史的変遷・制度について理解を深め、国民の福祉に対するニーズを学び今後の看護活動に役立てる。</p>			
	回	内容		
	1回目	I	社会福祉・社会保障の意義 社会福祉の基本的性格 社会福祉の歴史的変遷	
	2回目	II	社会福祉の分野とサービスの内容	
	3回目		社会福祉の動向	
	4回目	III	医療と福祉の現状と社会資源の活用	
	5回目		医療保険制度	
	6回目		介護保険制度	
	7回目		年金保険制度	
8回目		生活保護、障害福祉		
8回目	終講試験			
使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 社会福祉 健康支援と社会保障制度 ③ 医学書院</p> <p>その他：適宜ビデオ等視聴</p>			
評価方法	終講試験による。			
備考				

授業科目		障害者福祉論		担当者		勝 智樹	
区分	単位数	時間数	授業形態			履修年次・前/後期別	
	1	15	講義15			2年次・前後期	
	実務経験	有		障害者支援施設指導員			
	その実務経験を生かして行う教育内容 障害福祉の理念・制度 活用の実際						
授業の目標および授業計画	<p>目標 障害者福祉の概念を理解し、現在抱えている問題点や背景を知り、看護職としての役割を学ぶ。</p> <p>回 内容</p> <p>1 国際生活機能分類（ICF）</p> <p>2 身体障害者とその分類に関して</p> <p>3 障害福祉の基本理念（障害者の人権）</p> <p>4 障害者施策の発展</p> <p>5 支援費制度</p> <p>6 障害者福祉のサービス体系</p> <p>7 障害者福祉関連施策</p> <p>8 終講試験</p> <p>対人援助技術を踏まえながら、パワーポイント等を用い進めていく。</p>						
	使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野</p> <p>社会福祉 健康支援と社会保障制度③ 1章 2章 4章 7章</p> <p>医学書院</p>					
評価方法	終講テスト						
備考							

授業科目		臨床心理学	担当者	畑田 惣一郎
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義30	1年次・後期
	実務経験	有	臨床心理士	
	その実務経験を生かして行う教育内容 健康問題と人間心理との関係 病的状態の心理状態への援助法			
授業の目標および授業計画	目標 健康問題と人間心理の関係について触れ、人間の病的状態における心理状態に対し、どのような援助を必要としているかについて方向性を理解する。			
	1回目 心理学のイメージを表現する			
	2回目 風景構成法			
	3回目 コミュニケーションについて SST体験			
	4回目 コミュニケーションについて 受信、処理、送信			
	5回目 心理検査			
	6回目 高齢者用検査			
	7回目 ストレス			
	8回目 Y-G性格検査			
	9回目 バウムテスト			
	10回目 心理面接について カウンセラーの基本的態度・諸技法			
	11回目 思考の傾向、行動療法、認知行動療法			
	12回目 患者への対応 グループ発表			
	13回目 患者への対応 グループ発表			
	14回目 患者・看護師について振り返り			
15回目 まとめ レポート				
使用教材および参考文献	必要時資料配布する。 参考文献、図書についてもその都度提示する。			
評価方法	出席点と筆記試験（レポートも含む）で行う。			
備考				

授業科目	公衆衛生		担当者	財部マチ子
区分	単位数	時間数	授業形態	
	1	30	講義30	
	実務経験	有	保健師	
区分	その実務経験を生かして行う教育内容 1. 感染症・学校保健・産業保健・精神保健における現状と課題 2. 母子保健・成人保健・老年保健について地域保健の実際			
授業の目標および授業計画	<p>授業の目標 地域保健の概要について学び、ヘルスプロモーション活動における今後の課題を知る。</p> <p>授業計画</p> <p>1～2回 公衆衛生の定義と歴史、公衆衛生の活動対象 3回 公衆衛生のしくみ 4回 集団の健康を捉えるための手法 疫学・保健統計 5回 環境と健康 6回 感染症とその予防対策 7～10回 地域保健 母子保健 成人保健 高齢者保健 精神保健 障害者保健 11回 地域保健 歯科保健 難病支援・障害支援 感染症対策 12回 地域の環境と健康について学ぶ 環境問題・保健医療福祉の状況 ヘルスプロモーション活動について 13回 学校と健康 14回 職場と健康 健康危機管理・災害保健 15回 まとめ・終講試験</p>			
使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 医学書院</p> <p>参考文献：国民衛生の動向 厚生統計協会</p>			
評価方法	小テスト 終講テスト レポート 等 出席状況・授業態度を参考とする。			
備考				

授業科目	関係法規		担当者	下満ゆかり
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義15	3年次・後期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	目標 法の基礎的知識および保健医療に関係のある法規を学び、医療従事者としての業務と責任を自覚する。			
	回	内容		
	1回	法規の概念 A. 法規の概念 B. 衛生法規の意義 C. 衛生法規の沿革 D. 衛生法規の分類 E. 厚生行政のしくみ		
	2回	看護法 保健師助産師看護師法		
	3回	医事法 医療法 医療関係資格法 医療を支える法		
	4回	保健衛生法		
	5回	薬務法 環境衛生法		
	6回	社会保険法 福祉法 労働法と社会基盤整備		
	7回	環境法		
8回	終講試験			
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 看護関係法令 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④ 医学書院			
評価方法	終講試験による。			
備考				

專 門 分 野

授業科目	看護の扉	担当者	富吉 良子
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	30	講義30
	実務経験	有	看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 看護の主要概念 保健医療システムの中での看護の位置づけ・専門性		
授業の目標および授業計画	授業内容 1. 看護の変遷を知り 看護の定義と役割を理解する。 2. 統合体としての人間を知り、看護の対象を理解する 3. 看護のケアの本質を知り、看護提供の方法を理解する。		
	授業計画		
	1回	1. 看護とは	
	2回	看護とは	
	3回	看護教育制度	
	4回	看護の定義と目的	
	5回	II 看護の対象とその理解	
	6回	看護の対象	
	7回	健康障害をもつケアの対象の理解	
	8回	III 看護後の理論と実践	
	9回	看護の視点	
	10回	IV 看護における倫理	
	11回	〃	
	12回	V 看護援助の基本	
	13回	〃	
14回	看護過程		
15回	VI 看護における法的側面		
使用教材および参考文献	テキスト：看護学概論 医学書院 系統看護学講座専門 看護覚え書き 日本看護協会出版 DVDなどを教材に活用		
評価方法	終講試験（80％） 課題レポート（20％）		
備考			

授業科目		患者を正しく診る技術		担当者	赤崎里美
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義20・演習10		1年次 前期
	実務経験	有		看護師	
その実務経験を生かして行う教育内容 一般状態の観察、生命の徴候の正確な測定方法					
授業の目標および授業計画	授業内容 1. ヘルスアセスメントとは何かを理解する。 2. バイタルサインの基礎的知識を学び、正確な測定方法を体得する。 3. 患者の健康状態を知るためのフィジカルアセスメントの基本を理解する。				
	授業計画 I 1～2回 ヘルスアセスメントの概念・技術 セルフケア能力のアセスメント 全体の概観 3回 バイタルサイン 体温、脈拍 4回 バイタルサイン 呼吸、血圧 5回 バイタルサイン 意識 6回 血圧測定 演習 7～8回 血圧測定 演習 9回 その他の計測 10回 フィジカルアセスメントの目的と看護における意義 11回 消化器のフィジカルアセスメント 12回 呼吸器のフィジカルアセスメント 13回 循環器のフィジカルアセスメント 14～15回 演習 フィジカルイグザミネーション 終講試験				
使用教材および参考文献	テキスト：「系統看護学講座専門 基礎看護技術 I」医学書院 「写真でわかる実習で使える看護技術」MCメディア 「看護技術 プラクティス」学研メディカル秀潤社 「看護がみえる フィジカルアセスメント」メディックメディア プリント、DVDなどを参考に講義				
評価方法	課題10% 演習20% 終講試験70%				
備考					

授業科目		呼吸・循環・体温を整える技術	担当者	赤崎 里美																																			
区分	単位数	時間数	授業形態																																				
	1	30	講義 8・演習 2 2																																				
	実務経験	有		看護師																																			
	その実務経験を生かして行う教育内容 機能障害のメカニズムと主な症状に対するケア 医療機器の原理																																						
授業の目標および授業計画	授業目標																																						
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 酸素・人工呼吸療法の目的と方法を理解する。 2. 排痰ケア、一時・持続吸引の目的と方法を理解する。 3. 体温調節、抹消循環促進ケアの目的と方法を理解する。 4. 医療機器の原理と実際を理解する。 																																						
授業の目標および授業計画	授業計画																																						
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: right;">1回</td> <td>酸素療法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">2～3回</td> <td>人工呼吸療法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">4～5回</td> <td>演習人工呼吸療法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">6～8回</td> <td>吸入 排痰ケア</td> <td>(体位ドレナージ・咳嗽介助・吸引)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">9～10回</td> <td>演習</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">1 1回</td> <td>胸腔ドレナージ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">1 2回</td> <td>体温管理 (冷罨法・温罨法)</td> <td>抹消循環促進ケア</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">1 3回</td> <td>輸液ポンプ・シリンジポンプ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">1 4～1 5回</td> <td>演習・振り返り</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				1回	酸素療法			2～3回	人工呼吸療法			4～5回	演習人工呼吸療法			6～8回	吸入 排痰ケア	(体位ドレナージ・咳嗽介助・吸引)		9～10回	演習			1 1回	胸腔ドレナージ			1 2回	体温管理 (冷罨法・温罨法)	抹消循環促進ケア		1 3回	輸液ポンプ・シリンジポンプ			1 4～1 5回	演習・振り返り	
1回	酸素療法																																						
2～3回	人工呼吸療法																																						
4～5回	演習人工呼吸療法																																						
6～8回	吸入 排痰ケア	(体位ドレナージ・咳嗽介助・吸引)																																					
9～10回	演習																																						
1 1回	胸腔ドレナージ																																						
1 2回	体温管理 (冷罨法・温罨法)	抹消循環促進ケア																																					
1 3回	輸液ポンプ・シリンジポンプ																																						
1 4～1 5回	演習・振り返り																																						
使用教材および参考文献	テキスト 系統看護学講座専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研メディカル秀潤社																																						
評価方法	課題：20% 演習：10% 終講試験：70%																																						
備考																																							

授業科目		環境調整・活動・休息 の援助技術	担当者	村下 清美 上野 えりか
区分	単位数	時間数	授業形態	
	1	30	講義 16 ・ 演習 14	
	実務経験	有		看護師
その実務経験を生かして行う教育内容 環境調整技術 活動・休息援助技術				
授業の目標および授業計画	<p>授業目標 日常生活における対象のニーズに応じた援助技術を習得する。</p> <p>《授業計画》 I 「環境調整技術」 第1回 環境とは 療養生活の環境 病床環境を整える意義 第2回 病室の環境のアセスメントと調整 第3回 ベッド周囲の環境整備 第4回 ベッドメイキング リネンのたたみ方 第5回 リネン交換 第6回 ベッドメイキング・リネン交換 第7回 ベッドメイキング・リネン交換</p> <p>II 「活動・休息援助技術」 第1回 睡眠・覚醒の援助（睡眠の種類と制御メカニズム、睡眠障害のアセスメント） 第2回 睡眠障害の援助、リラクゼーション、睡眠薬について、基本的活動の援助 第3回 活動・運動の援助（姿勢、体位、良肢位、廃用症候群、ボディメカニクス） 第4回 ベッド上での水平移動、体位変換、体位保持、褥瘡予防について 第4回 演習（ボディメカニクス、ベッド上での水平移動、体位変換、体位保持） 第5回 起き上がり、立ち上がり、関節可動域訓練、筋力強化訓練について 第6回 演習（起き上がり、立ち上がり、関節可動域訓練、筋力強化訓練） 第7回 車いすとストレッチャーへの移乗・移動、杖歩行時の援助について 第8回 演習（車いすとストレッチャーへの移乗・移動、杖歩行時の援助）</p>			
	使用教材および参考文献	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 学生のための ヒヤリ・ハットに学ぶ 看護技術 看護技術プラクティス 写真で分かる 実習で使える看護技術 フロレンス・ナイチンゲール 看護覚え書き 看護技術 講義・演習ノート 第2版 上巻		医学書院 医学書院 学研 インターメディカ 日本看護協会出版 サイオ出版
評価方法	基本的には演習、レポート、終講試験の成績と、看護技術試験で評価基準に到達していること。 I：50%、II：50%の評価とする。			
備考				

授業科目		食事・排泄の援助技術		担当者	島津 めぐみ・上野 えりか
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義 20 ・ 演習 10		1年次 前期
	実務経験	有		看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 食事援助技術 排泄援助技術				
授業の目標および授業計画	<p>目的 日常生活における対象のニーズに応じた援助技術を習得する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントの方法を理解する。 2. 食事介助の具体的な方法を学ぶ。 3. 非経口的栄養摂取の援助の概略について理解し、経鼻経管栄養法の具体的な方法を学ぶ。 4. 対象の排泄ニーズに応じた援助技術を学ぶ。 <p>授業計画</p> <p>I. 「食事援助の技術」</p> <p>第1回 食の意義 食行動のメカニズム、栄養状態及び摂食能力の評価</p> <p>第2回 誤嚥 病人の食事 自助具</p> <p>第3回 食欲への援助、食事介助の基本</p> <p>第4～5回 食事介助演習</p> <p>第6回 非経口的栄養摂取の援助、経静脈栄養法</p> <p>第7回 経鼻経管栄養</p> <p>II. 「排泄援助技術」</p> <p>第1回 排泄の意義・メカニズム</p> <p>第2回 排尿・排便障害（排泄に影響を与える因子）</p> <p>第3回 排尿・排便の援助の方法</p> <p>第4回 排尿・排便障害の援助の方法</p> <p>第5回 おむつ交換（演習）</p> <p>第6回 浣腸の目的と適応</p> <p>第7～8回 膀胱留置カテーテル・浣腸（演習） 事例検討</p>				
使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p> <p>看護技術プラクティス 学研メディカル秀潤社</p> <p>写真でわかる 実習で使える看護技術 インターメディカ</p> <p>看護技術 講義・演習ノート 上巻 サイオ出版</p>				
評価方法	<p>演習・レポート・終講試験の成績で評価基準に到達していること。</p> <p>I：50%、II：50%の評価とする。</p>				
備考					

授業科目	皮膚・粘膜保全の援助技術		担当者	島津 めぐみ
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30		1年次 前期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 清潔援助技術 感染予防についての技術			
授業の目標および授業計画	<p>業目的</p> <p>1. 日常生活における対象のニーズに応じた援助技術を習得する。 2. 看護における基本技術を理解できる。</p> <p>II. 授業目標</p> <p>1. 日常生活における対象の清潔ニーズに応じた援助技術を学ぶ。 2. 感染予防の意義を理解し、原理・原則に沿った基本的な滅菌操作ができる。</p> <p>III. 授業計画</p> <p>I. 「清潔援助技術」</p> <p>第 1 ～ 2 回 基礎知識、口腔ケア・入浴介助・陰部洗浄 第 3 回 手浴・足浴・洗髪^の留意事項 第 4 回 手浴・足浴・洗髪^の実際（演習） 第 5 ～ 6 回 衣服生活の援助 臥床患者の寝衣交換の実際（演習） 点滴中の患者の寝衣交換の実際（演習） 第 7 ～ 8 回 清拭^の留意事項及び実際（演習） 第 9 回 清拭^の援助方法実施計画（グループワーク） 第 10 ～ 12 回 演習（清拭・手浴・足浴・洗髪）</p> <p>II. 「感染予防」</p> <p>第 1 回 感染防止の基礎知識・標準予防策・感染経路別予防策 第 2 回 洗浄・消毒・滅菌 感染性廃棄物の取り扱い 第 3 回 無菌操作・ガウンテクニック・滅菌手袋装着演習</p>			I. 授
	使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研メディカル秀潤社 写真でわかる 実習で使える看護技術 インターメディカ</p> <p>プリント、ビデオなどを参考に講義</p>		
評価方法	基本的には演習、レポート、終講試験の成績による。			
備考				

授業科目		与薬の援助技術		担当者		島津めぐみ	
区分	単位数	時間数	授業形態			履修年次・前/後期別	
	1	15				1年次 後期	
	実務経験	有		看護師			
	その実務経験を生かして行う教育内容 診療に伴う援助技術						
授業の目標および授業計画	<p>授業目的 診療に伴う看護技術を理解する。</p> <p>授業目標 1. 薬物療法の目的・意義について理解できる。 2. 薬における看護師の位置づけ、および各職種の役割を理解できる。 3. 薬物の投与方法とそれぞれの特徴を理解できる。</p> <p>授業計画</p> <p>第1～2回 薬物療法の意義、薬物療法の基礎的知識 薬物療法における看護の役割</p> <p>第3回 「安全で確実な与薬のために」グループワーク 正しい薬剤の投与、与薬後の状態評価</p> <p>第4回 注射法（解剖生理を含む）</p> <p>第5回 各注射の注意事項 DVD使用</p> <p>第6～7回 皮下・筋肉内・静脈内注射をモデル人形で実施 輸血</p> <p>第8回 終講試験</p>						
	使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研メディカル秀潤社 写真でわかる 実習で使える看護技術 インターメディカ</p> <p>プリント、ビデオなどを参考に講義</p>					
評価方法	基本的には演習、レポート、終講試験の成績による。						
備考							

授業科目		看護の思考と行動の道筋	担当者	穂山 みどり
区分	単位数	時間数	授業形態	
	1	30		
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 患者理解 看護の思考過程 看護過程展開方法			
授業の目標および授業計画	目的 看護の対象者を理解し、必要な看護の考え方がわかる			
	目標 1. 看護の対象を理解する。 2. 看護の思考過程がわかる。 3. 看護の展開方法がわかる。 4. 紙上事例を用いて看護過程を展開できる。			
	授業計画			
	第1回	看護とは 看護過程の意義		
	第2回	看護過程の各段階 看護理論		
	第3回	①アセスメント/情報収集 事例を用いて情報を捉える		
	第4回	②アセスメントの枠組み		
	第5回	③アセスメント/分析 情報の分析解釈 カテゴリー毎にS・Oの分類、情報のクラスタリングを行う ニーズの充足・未充足について考える		
	第6回	③アセスメント/分析 情報の分析解釈		
	第7回	③アセスメント/分析 情報の分析解釈		
	第8～9回	関連図を書くことで問題点・力を導き出す		
	第10回	看護診断・目標の設定 達成基準を考える		
	第11回	目標達成するための計画を考える		
	第13回	個別性を踏まえた計画であるか評価する		
	第14回	記録方法		
第15回	SOAP記録			
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 専門 基礎看護技術 I 医学書院 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ヌーベルヒロカリ 根拠がわかる症状別看護過程 南江堂			
評価方法	終講試験 (30%) 看護過程展開レポート (70%)			
備考				

授業科目		生体モニタリングと救命救急処置		担当者	村下 清美
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	15	講義7 演習8		1年次 後期
	実務経験	有		看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 生体情報のモニタリングの意義と看護の実際 救命救急を必要とする対象への看護技術				
授業の目標および授業計画	目標 生体情報のモニタリングについて理解し、看護の実際を学ぶ 救命救急を必要とする対象への看護技術について学ぶ				
	授業計画				
	第1回	クリティカルケア看護とは クリティカルケア看護の場 クリティカルケア看護の対象			
	第2回	観察とアセスメント 使用する物品、アセスメントの特徴、緊急検査			
	第3回	急変時の対応 ・急変時の初期対応 ・院内の救急体制 ・急変時における看護師の役割 ・急変に備えた準備			
	第4回	心肺停止状態への対応 BLS一次救命処置			
	第5回	心肺停止状態への対応 ALS二次救命処置			
	第6～7回	救急時の看護技術（心電図モニター・観血的動脈圧モニター・止血法・ 酸素投与・吸引・人工呼吸・血管確保・輸液と輸血・胃洗浄・穿刺・創傷処置） 救急時に使用される医薬品			
	第8回	終講テスト			
使用教材および参考文献	系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 急性期看護Ⅱ 救急看護・クリティカルケア 写真でわかる 実習で使える看護技術 看護技術プラクティス		医学書院 南江堂 インターメディカ 学研メディカル秀潤社		
評価方法	小テスト 終講テスト				
備考					

授業科目	看護の探求	担当者	元 桂恵
区分	単位数		授業形態
	1	30	講義20・演習10
	実務経験	有	看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容		
	看護研究の基礎 文献検索、文献検討の方法 プレゼンテーション方法		
授業の目標および授業計画	授業目標 1. 看護研究を実施するための基本的なプロセスとルールを理解する。 2. 看護における疑問や課題を解決するための文献検索と文献検討の方法を学ぶ。 3. ケーススタディを基本構造に則ってレポートにまとめることができる。 4. ケーススタディを聴き手にわかりやすく口頭発表できる。		
	授業計画 1回目： 講義 看護における研究の意義 看護研究におけるケーススタディの位置づけ ケーススタディのテーマ選定について 2回目： 演習 文献検索と文献検討の方法について 3回目： 講義 研究計画書の必要性と作成方法 4回目： 演習 研究計画書の検討 5回目： 講義 ケースレポートの基本構造（まとめ方） 6回目： 講義 抄録の作成について 講義 口頭発表について（スライド作成・発表原稿の作成） 7回目： 講義 研究テーマの絞り込みのプロセス 8回目： 講義 研究デザイン 量的な研究と質的な研究の特徴 9回目： 講義 データ収集・分析方法 10回目： 講義 研究論文のまとめ方の約束事・クリティークの仕方 11回目： 演習 研究の論文のクリティーク 12回目： 講義 研究倫理・看護研究における倫理的配慮 13～15回目 演習 ケーススタディ発表		
使用教材および参考立	テキスト：「楽しくできるわかりやすい看護研究論文の書き方」照林社 資料配布		
評価方法	1) 用語の定義・研究計画書・クリティーク 40% 2) ケースレポート・口頭発表 60% *提出期限・グループワークや発表会の参加状況を重視する		
備考			

授業科目	病院における看護の場と人を知る実習		担当者	島津 めぐみ
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	45	実習45	1年次・後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 患者理解 日常生活援助技術 コミュニケーション技術			
授業の目標および授業計画	<p>I. 目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院施設の概要、看護の対象の入院環境と療養環境を知り、助言を得ながら必要な日常生活行動の援助ができる。 <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院・各部署の概要がわかる。 2. 入院の生活環境がわかる。 3. 看護活動の実際がわかる。 4. 対象とのコミュニケーションができる。 5. 看護職チームや多職種とのかかわり連携について知ることができる。 6. 看護を学ぶ意欲を高めることができる。 <p>III. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションを受ける。 2. 看護援助の見学 3. 受け持ち患者とのコミュニケーションの実施。 4. 指導者とともに看護活動を実践する。 5. 看護技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションの技術 2) 対象把握の技術（バイタルサイン） 3) 日常生活行動を支える技術 4) 安全・安楽の技術 5) 観察・記録 <p>IV. 実習場所</p> <p>医療法人愛誠会 昭南病院 霧島市立 医師会医療センター 鹿児島医療生活協同組合 国分生協病院</p>			
履修要件	開講している専門分野の基礎看護学の単位を取得もしくは取得見込みがあること			
授業の進め方	基礎看護学実習 I 要項に基づき実習を行う。			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、既定の評価表に基づいて評価する			
備考				

授業科目	看護実践力の基礎を 培う実習	担当者	島津 めぐみ
区分	単位数	時間数	授業形態
	2	90	実習90
	実務経験	有	看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 患者の統合的理解 看護過程展開 日常生活援助技術 治療処置援助技術		
授業の目標および授業計画	<p>I. 目的 日常生活行動の援助を通して患者を統合的に理解し、患者に適応した看護過程の展開ができる</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入院生活における患者の問題点を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解する。 2. 患者のもつ看護上の問題を明確にし、必要な日常生活行動の援助を計画できる。 3. 計画に基づいて患者に適応した援助ができる。 4. 援助した結果を評価できる。 5. 保健医療福祉チームの一員としての自覚ができる。 6. 問題意識をもち、主体的に学習にとりくむ態度を身につける。 <p>III. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害により日常生活に支障のある成人・老人の日常生活の援助を行う。 2. 受け持ち患者への看護過程を展開する。 3. 看護技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションの技術 2) 日常生活行動を支える技術 3) 診療に伴う援助技術 4) 学習支援技術 5) 安全・安楽の技術 6) 観察・記録 <p>IV. 実習場所 医療法人愛誠会 昭南病院 霧島市立 医師会医療センター 鹿児島医療生活協同組合 国分生協病院</p>		
履修要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野の基礎看護学の単位を取得していること 2. 既習の専門基礎分野の単位を取得または取得見込みであること。 		
授業の進め方	基礎看護学実習Ⅱ要項」に基づき展開する。		
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録をもとに、既定の評価表に基づいて評価する。		
備考			

授業科目		地域での暮らしを知る	担当者	赤崎 里美
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義10 演習20	1年次・前期
	実務経験	有	看護師	
その実務経験を生かして行う教育内容 地域で生活する人々の生活とその多様性 地域での生活に必要な環境 暮らしが健康に与える影響				
授業の目標および授業計画	【授業目標】 地域で暮らす人々の生活と多様性を理解し、地域の環境が人々の生活や健康へ及ぼす影響を学ぶ。			
	【授業計画】 1～2回 人々の暮らしと健康 ①暮らしとは ②暮らしと健康の関係 ③暮らしのなかで健康をとらえる 3～4回 暮らしの基盤としての地域の理解 ①地域とは ②人々の暮らす地域の多様性 地域の物理的環境、社会的環境、地域の文化・人々の関係性を調べ、人々の生活や健康への影響について話し合う。 5回 地域の特性を知る 6～7回 地区踏査 8～9回 地区踏査での学び 10回 生活と健康をめぐる動向 ①人口・世帯に関する動向 ②健康に関する動向 ③医療・介護提供体制の方向性 人口や疾病構造の変化がもたらす影響について話し合う。 11回 生活と健康を支える ①人々の住まい ②地域の人々の生活と健康を支えるケア 12～13回 地域の住民組織による支え合いについて実際の取り組みを見学実習 終講試験			
よ使用 び用 献参教 考材 文お	テキスト ナーシンググラフィカ 在宅看護論1 地域医療を支えるケア メディカ出版			
評価方法	ワーク、演習、プレゼンテーション、終講試験の成績により評価する。			
備考				

授業科目		在宅で療養・生活する人とその家族の理解		担当者	西 美恵子
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	15	講義15		1年次・後期
	実務経験	有		看護師・保健師	
区分	その実務経験を生かして行う教育内容 地域・在宅で暮らす療養者とその家族の特性 対象に求められる看護及び社会資源 地域・在宅看護の変遷				
授業の目標および授業計画	<p>【授業目標】 日本の在宅看護の変遷とその社会的背景を学び、地域・在宅看護の必要性を理解する。傷病・障害を持ちながら在宅で療養・生活する人とその家族の特性、地域包括ケアシステムにおける地域・在宅看護について理解する。</p> <p>【授業計画】</p> <p>1回 地域・在宅看護の概念① 地域・在宅看護の背景/在宅看護の基盤/地域療養を支える地域・在宅看護の役割・機能</p> <p>2回 地域・在宅看護の概念② 地域・在宅看護を展開するための基本理念（アドボカシー、エンパワメント、自己効力感、パートナーシップ、ストレングス、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション）/地域・在宅看護における倫理</p> <p>3回 在宅療養者と家族の支援 在宅療養の対象者と在宅療養の成立要件</p> <p>4回 在宅療養と家族の支援 在宅療養における家族のとらえ方/在宅療養者の家族への看護</p> <p>5回 地域包括ケアシステムにおける地域・在宅看護① 地域包括ケアシステム</p> <p>6回 地域包括ケアシステムにおける地域・在宅看護② 療養の場の移行に伴う看護/継続看護/地域包括ケアシステムにおける多職種・他機関連携</p> <p>7回 地域包括ケアシステムにおける地域・在宅看護③ 地域・在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント</p> <p>8回 終講試験</p>				
使用教材および参考文献	<p>テキスト：ナーシンググラフィカ 在宅看護論1 地域医療を支えるケア メディカ出版</p> <p>VTR：「在宅看護の基礎」「よくわかる介護保険制度」「訪問看護総論」</p> <p>DVD：「療養の場の移行に伴う看護」「様々な在宅看護の実践」他</p> <p>参考文献：厚生省の指標 国民衛生の動向 「私たちの在宅看護論」「その時は家で」「これからの在宅看護論」「家族看護を基盤とした在宅看護論」</p>				
評価方法	終講試験、事前課題・レポート課題への取り組み状況、授業への参加状況などから総合的に判断する。				
備考	時間外学習 予習においてテキストの該当頁、関連書籍を熟読し、理解できない箇所を明確にする。関連動画がある場合は視聴する。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。				

授業科目	地域での暮らしを支える看護	担当者	西 美恵子
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	15	講義15
	実務経験	有	看護師・保健師
	その実務経験を生かして行う教育内容 地域・在宅で療養・生活する人とその家族のニーズに基づいた生活行動への支援		
授業の目標および授業計画	<p>【授業目標】 在宅で療養する人とその家族を対象とし、日常生活援助、医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を理解する。</p> <p>【授業計画】</p> <p>1回 在宅療養を支える訪問看護① 訪問看護の特徴/在宅ケアを支える訪問看護ステーション</p> <p>2回 在宅療養を支える訪問看護② 訪問看護サービスの展開 訪問看護における看護過程の特徴/訪問看護過程の実際/家庭訪問/初回訪問 訪問看護の記録</p> <p>3～4回 在宅療養生活を支える基本的な技術 コミュニケーション/フィジカルアセスメント/環境整備/生活リハビリ 感染予防/ターミナルケア</p> <p>5～7回 療養を支える看護技術（医療ケア） がん外来化学療法/胃瘻/在宅酸素療法/ストーマ管理/在宅CAPD管理 褥瘡管理/自己導尿</p>		
	使用教材および参考文献	<p>テキスト：ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域医療を支えるケア ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 地域医療を支える技術 「よくわかる在宅看護」 学研</p> <p>VTR：「在宅看護の基礎」「ビデオで学ぶ介護の基礎知識」「在宅看護論」 「在宅酸素療法看護マニュアル」 「寝たきりゼロへの10カ条」など</p> <p>参考文献 系統看護学講座 統合分野 「在宅看護論」医学書院</p>	
評価方法	終講試験、事前課題・レポート課題への取り組み状況、授業への参加状況などから総合的に判断する。		
備考	時間外学習 予習においてテキストの該当頁、関連書籍を熟読し、理解できない個所を明確にする。関連動画がある場合は視聴する。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。		

授業科目		地域での暮らしを支える多職種連携	担当者	赤崎 里美
区分	単位数	時間数	授業形態	
	1	15	講義6 ・ 演習8	
	実務経験	有		看護師
その実務経験を生かして行う教育内容 地域・在宅看護における多職種の役割 多職種との連携・協働を基盤としたケアマネジメント				
授業の目標および授業計画	【授業目標】 1. 地域・在宅看護における多職種の役割を理解する。 2. 多職種連携・協働を基盤としたケアマネジメントを理解する。			
	【授業計画】 1回 地域・在宅における多職種の役割と連携・協働 看看連携 2回 地域・在宅における他職種の実際 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士、訪問介護員(ホームヘルパー) PSW、MSW、介護支援専門員、民生委員、福祉アドバイザー、児童委員 3回 社会資源チームケア ①ケアマネジメントと社会資源 ②チームケア 4～7回 多職種連携と住民協働による模擬地域ケア会議演習(ロールプレイ) 8回 終講試験			
使用教材および参考文献	テキスト：ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域医療を支えるケア 「よくわかる在宅看護」 学研			
評価方法	終講試験、事前課題・レポート課題への取り組み状況、授業への参加状況などから総合的に判断する。			
備考	時間外学習 予習においてテキストの該当頁、関連書籍を熟読し、理解できない個所を明確にする。関連動画がある場合は視聴する。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。			

授業科目		地域での暮らしを支える 看護実践プロセスⅠ	担当者	西 美恵子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義15	2年次 前・後期
	実務経験	有	看護師・保健師	
その実務経験を生かして行う教育内容 地域・在宅で療養・生活する人とその家族への看護の展開方法				
授業の目標および授業計画	【授業目標】 さまざまな事例から、療養者とその家族を取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際を理解する。 既存の看護の知識を応用し、対象に必要な在宅看護の展開方法を理解する。			
	【授業計画】 1～2回 在宅看護の実際 在宅看護介入時期別の特徴 在宅看護における安全性の確保（医療事故防止） 信頼関係の形成と療養者・家族の意思決定プロセスへの支援 3～7回 対象に応じた地域・在宅看護の展開・社会資源・看護技術 1) 最期まで自宅で過ごしたいターミナル期のがん療養者 2) 在宅での生活に不安を抱きつつ退院するALS療養者 3) 事故により中途障害者となった成人男性 4) 老老介護であるパーキンソン病療養者：ADLの低下、再発予防 5) 誤嚥性肺炎を生じた超高齢者 6) 日中独居の認知症療養者：認知症 7) 在宅療養を開始する重症心身障害児 8回 終講試験			
使用教材および参考文献	テキスト：ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域医療を支えるケア ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 地域医療を支える技術 「よくわかる在宅看護」 学研 VTR : 「分かりやすい在宅ケア」「介護の方法と実際」 DVD : 「ユマニチュード」 在宅ケアアセスメント票			
評価方法	終講試験、事前課題・レポート課題への取り組み状況、授業への参加状況などから総合的に判断する。			
備考	時間外学習 予習においてテキストの該当頁、関連書籍を熟読し、理解できない個所を明確にする。 関連動画がある場合は視聴する。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて学習した内容を整理し、理解を深める。			

授業科目		地域での暮らしを支える 看護実践プロセスⅡ	担当者	赤崎 里美
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義15	2年次 前・後期
	実務経験	有	看護師	
その実務経験を生かして行う教育内容 地域・在宅で療養・生活する人とその家族への看護の展開方法				
授業の目標および授業計画	【授業目標】 1. 家庭訪問の特徴や方法、必要な技術を身につける。 2. 対象の状態をふまえた生活を支える技術と医療ケアの個別支援を展開する。			
	【授業内容】 1回 呼吸のアセスメントや呼吸リハビリテーションの基本 2～5回 慢性呼吸不全でHOTを受けている療養者の事例を用いて、地域・在宅看護の展開をする。（退院前～退院に向けて～在宅における看護を展開する） 6～7回 演習発表 8回 終講試験			
使用教材および参考文献	テキスト：ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域医療を支えるケア ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 地域医療を支える技術 「よくわかる在宅看護」 学研			
評価方法	終講試験、事前課題・レポート課題への取り組み状況、授業への参加状況などから総合的に判断する。			
備考	時間外学習 予習においてテキストの該当頁、関連書籍を熟読し、理解できない個所を明確にする。 関連動画がある場合は視聴する。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて学習した内容を整理し、理解を深める。			

授業科目	地域での暮らしを支える 看護実践力を培う実習		担当者	赤崎 里美										
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別										
	2	60	実習60	3年次・前後期										
	実務経験	有		看護師										
	その実務経験を生かして行う教育内容 地域・在宅で看護を必要としている個人、その家族に対する看護援助の実践 地域で生活している人々の健康の保持増進と質の高い生活への援助													
授業の目標および授業計画	<p>I. 目的 在宅で看護を必要としている個人とその家族に対して、生活の現状をふまえた看護援助が実践できる能力を養う。また、地域で生活している人々が保健サービスを利用して、健康の保持増進とより質の高い生活を送ることができるよう援助することの必要性を理解する。</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養している人への訪問看護を通して、療養している個人と家族に対する看護の役割を理解する。 2. 地域で生活している人々の健康増進・疾病の予防について理解する。 3. 地域で生活している人々の健康上の問題・関連する諸問題の解決にかかわる多様な職種の役割・機能を理解し、調整的役割の重要性を学ぶ。 4. 継続看護の必要性を理解する。 5. 対象をとりまく環境を理解し、その人の価値観と考え方を尊重した接し方ができる。 <p>III. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養している人への訪問看護 2. 地域における健康保持増進・疾病予防の援助 3. 在宅で療養している人の生活を支える援助 <p>IV. 実習場所</p> <table border="0"> <tr> <td>始良地区医師会訪問看護ステーション</td> <td>大隅地域訪問看護ステーション</td> </tr> <tr> <td>生協訪問看護ステーション国分</td> <td>訪問看護ステーション姫城</td> </tr> <tr> <td>霧島市地域包括支援センター</td> <td>霧島市社会福祉協議会隼人支所</td> </tr> <tr> <td>医療法人昭南病院地域連携室</td> <td>国分生協病院地域連携室</td> </tr> <tr> <td>総合在宅ケアセンターやごろう苑</td> <td>小規模多機能ホーム敷根</td> </tr> </table> <p>V. 在宅看護論実習要項に沿って実習する</p>				始良地区医師会訪問看護ステーション	大隅地域訪問看護ステーション	生協訪問看護ステーション国分	訪問看護ステーション姫城	霧島市地域包括支援センター	霧島市社会福祉協議会隼人支所	医療法人昭南病院地域連携室	国分生協病院地域連携室	総合在宅ケアセンターやごろう苑	小規模多機能ホーム敷根
始良地区医師会訪問看護ステーション	大隅地域訪問看護ステーション													
生協訪問看護ステーション国分	訪問看護ステーション姫城													
霧島市地域包括支援センター	霧島市社会福祉協議会隼人支所													
医療法人昭南病院地域連携室	国分生協病院地域連携室													
総合在宅ケアセンターやごろう苑	小規模多機能ホーム敷根													
履修要件	既習の専門基礎分野、専門分野の基礎看護学、地域在宅看護論の単位を修得していること。													
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、レポート、規定の評価表に基づいて評価する。													
備考														

授業科目		成人期の理解		担当者		森山 ゆきみ	
区分	単位数	時間数	授業形態			履修年次・前/後期別	
	1	30	講義			1年次 後期	
	実務経験	有		看護師			
	その実務経験を生かして行う教育内容 成人各期の健康の保持増進・疾病の予防と健康レベルの回復に応じた看護						
授業の目標および授業計画	成人の身体的機能の変化ならびに心理・社会的特性を理解する。 成人を取り巻く環境と発達段階に応じた健康上の課題と対策を理解する。 成人の健康レベルに応じて活用される理論・モデルを理解する。						
	第1回	成人とは					
	第2回	青年期の特徴					
	第3回	壮年期・中年期の特徴					
	第4回	成人を取り巻く環境と生活（成人の健康の状況）					
	第5回	生活習慣に関連する健康障害					
	第6回	生活と健康をまもり育むシステム（健康日本21）					
	第7回	ストレスと健康障害					
	第8・9回	労働者と健康問題・労働者を守り育むシステム					
	第10・11回	成人への看護アプローチの基本					
	第12回	成人の健康レベルに対応した看護の特徴					
	第13~15回	成人の健康レベルに応じて活用される理論・モデル					
	使用教材および参考文献	テキスト 系統看護学講座 専門 成人看護学総論 医学書院					
適宜資料を配布する。							
評価方法	終講テスト80%、課題・講義への参加度など20%						
備考							

授業科目		循環器・呼吸器の機能障害をもつ人の看護		担当者	森山 ゆきみ
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義		2年次 前期
	実務経験	有		看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 循環器・呼吸器の機能障害をもつ成人の看護				
授業の目標および授業計画	<p>循環器・呼吸器の機能障害をもつ成人への看護実践について学ぶ。</p> <p>[呼吸機能障害をもつ患者の看護]</p> <p>第1回 咳嗽・喀痰、呼吸困難のある患者の看護 ～2回 血痰・喀血のある患者の看護</p> <p>第3回 気管支鏡検査を受ける患者の看護 ～5回 人工呼吸器を装着する患者の看護 胸腔ドレナージを受ける患者の看護</p> <p>第6回 肺切除術を受ける患者の看護（開胸・胸腔鏡下） 第7回 化学療法を受ける患者の看護 ～8回 放射線療法を受ける患者の看護</p> <p>[循環器に障害のある患者の看護]</p> <p>第9回 胸痛のある患者の看護 ～10回 心臓カテーテル検査・PCI治療を受ける患者の看護 第11回 冠動脈バイパス術を受ける患者の看護 IABP治療を受ける患者の看護 ～12回 ペースメーカを装着した患者の看護 第13回 冠症候群（ACS）患者の看護 第14回 慢性心不全患者の看護 ～15回 慢性心不全患者への教育支援</p>				
使用教材 参考文献および	<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 専門 成人看護学[2]「呼吸器」 医学書院 専門 成人看護学[3]「循環器」 医学書院</p> <p>根拠がわかる症状別看護過程 南江堂 写真でわかる実習で使える看護技術 インターメディカ</p> <p>適宜資料を配布する。</p>				
評価方法	終講テスト80%、課題・講義への参加度など20%				
備考	専門基礎の呼吸・循環に関する構造と機能・疾病と治療について復習をして臨むこと				

授業科目		運動機能障害をもつ人の看護		担当者		三島真美 宮原正吾・山下	
区分	単位数	時間数	授業形態			履修年次・前/後期別	
	1	15	講義11・演習4			2年次・前期/後期	
	実務経験	有		看護師			
	その実務経験を生かして行う教育内容 運動機能障害患者の看護						
授業の目標および授業計画	目標 運動器・腎機能障害を持つ成人への看護実践の方法を学ぶ						
	授業計画 I 〈運動器〉 第1回 運動器疾患患者の看護 導入 第2回 脊髄造影検査時の看護・症状に対する看護 第3回 ギプス固定時の患者の看護・固定時の二次障害予防 第4回 牽引療法を受ける患者の看護 第5回 腰椎椎間板ヘルニア患者の看護 第6回 大腿頸部骨折患者の看護 第7～8回 演習 良肢位・基本肢位 関節可動域測定 徒手筋力測定 (MMT) 床上訓練 松葉杖・一本杖の長さ 介達牽引 (スピードトラック牽引)						
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 成人看護学 [10] 専門「運動器」						医学書院
評価方法	出席状況・終講試験・レポートによる						
備考							

授業科目	腎・泌・生殖器の機能障害をもつ人の看護	担当者	赤崎里美 森 隆徳
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	15	講義15
	実務経験	有	看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容		
腎機能障害患者の看護			
授業の目標および授業計画	目標 腎・泌・生殖器の機能障害を持つ人への看護実践の方法を学ぶ		
	授業計画		
	第1回	腎泌尿器疾患患者の看護 導入 患者の特徴と看護の役割 腎泌尿器科の検査と看護の特徴	
	第2回	尿失禁のある患者の看護・血尿のある患者の看護	
	第3回	浮腫のある患者の看護・前立腺肥大症の患者の看護	
	第4回	泌尿器科の手術を受ける患者の看護（前立腺・膀胱・尿路結石）	
	第5回	慢性腎不全の患者の看護	
	第6回	血液透析を受ける患者の看護	
	第7回	透析導入期の患者の看護（事例）	
第8回	終講試験		
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 専門 成人看護学 [8] 「腎・泌尿器」 医学書院 VTR : 「安全な透析を行うための工夫」「シャントの日常管理」 DVD : 「慢性腎臓病と腎性貧血」		
評価方法	出席状況・終講試験・レポートによる		
備考			

授業科目	内分泌・栄養代謝機能障害をもつ人の看護		担当者	森山 ゆきみ
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義24・演習6	2年次 後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 内分泌・栄養代謝に障害を持つ患者の看護			
授業の目標および授業計画	<p>内分泌・栄養代謝に機能障害をもつ成人への看護実践の方法を学ぶ。</p> <p>第1回 消化・吸収障害のおもな検査を受ける患者の看護 造影検査・内視鏡検査・ERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影法）</p> <p>～2回 肝生検を受ける患者の看護</p> <p>第3回 食道切除術を受ける患者の看護</p> <p>第4回 胃切除術を受ける患者の看護</p> <p>第5回 ストーマ造設術を受ける患者の看護</p> <p>第6回 ストーマ造設患者への生活指導</p> <p>第7回 肝動脈塞栓術を受ける患者の看護</p> <p>第8回 肝切除術を受ける患者の看護</p> <p>食道静脈瘤内視鏡治療を受ける患者の看護</p> <p>第10回 腹腔鏡下胆嚢摘出術を受ける患者の看護 胆汁ドレナージを受ける患者の看護</p> <p>第11回 経蝶形骨洞下垂体腺腫摘出術を受ける患者の看護 バセドウ病患者の看護</p> <p>第12回 甲状腺切除術を受ける患者の看護</p> <p>～13回 副腎摘出術を受ける患者の看護</p> <p>第14回 糖尿病患者の看護</p> <p>～15回 ・食事療法・運動療法・薬物療法、血糖測定・インスリン注射、 急性合併症への対応、フットケア</p>			
使用教材および参考文献	<p>テキスト 系統看護学講座 専門 成人看護学[5]「消化器」 医学書院 専門 成人看護学[6]「内分泌・代謝」 医学書院</p> <p>根拠が分かる症状別看護過程 南江堂 写真でわかる実習で使える看護技術 インターメディカ</p> <p>適宜資料を配布する。</p>			
評価方法	終講テスト：80%、課題・T講義への参加度：20%			
備考	専門基礎の消化器・内分泌の構造と機能、疾病と治療について復習をして臨むこと			

授業科目	生体防御・感覚機能障害をもつ人の看護	担当者	吉永篤司・島津めぐみ	
区分	単位数	時間数	授業形態	
	1	30	講義30	
	実務経験	有	医師・看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 生体防御機能の障害や感覚機能障害をもつ対象の看護			
授業の目標および授業計画	授業目標 生体防御機能の障害や感覚機能障害をもつ対象の看護を学ぶ。			
	授業計画			
	第1回	アレルギーの看護を学ぶにあたって 免疫のしくみとアレルギー		
	第2回～第3回	アレルギー検査と治療 アレルギー症状と疾患の理解		
	第4回	感染症の看護を学ぶにあたって 感染症とは		
	第5回～第6回	感染症の検査・診断 感染症の治療 感染症の疾患の理解		
	第7回	感染予防		
	第8回～第9回	膠原病の症状とその病態 膠原病疾患患者の治療と看護		
	第10回～第11回	免疫機能低下の看護 1. 白血病の復習 2. 骨髄穿刺時の看護 3. 骨髄移植、幹細胞移植術の看護 4. 移植時の倫理的配慮		
	第12回～第14回	感覚機能障害を持つ患者の看護 1. 眼疾患患者の観察とアセスメント 1) 主な看護 (1) 視機能に関連した症状の看護 (2) 治療（点眼法、光凝固） (3) 網膜剥離の看護 (4) 角膜移植の看護		
	第15回	終講試験		
	使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 成人看護学	専門 [4] 「血液・造血器疾患」 [11] 「アレルギー・膠原病・感染症」 [13] 「眼科疾患患者の看護」	医学書院
	評価方法	基本的には終講時の試験の成績による。		
	備考			

授業科目	成人の健康レベルに応じた看護	担当者	村下 清美 四反田紀子
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	30	講義30
	実務経験	有	看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 成人の健康レベルに応じた看護（急性期 回復期 慢性期 終末期）		
授業の目標および授業計画	目標 成人の健康レベルに応じた看護（急性期 回復期 慢性期 終末期）について学ぶ		
	授業計画		
	第1回	成人期における健康レベルと看護の特徴 急性期：健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 集中治療を受ける患者の看護 クリティカルケア看護における倫理的側面、心理社会的側面	
	第2回	主要病態に対する救急処置〔意識障害 頭痛 胸痛〕	
	第3回	〃 〔熱中症 食中毒 感染症 中毒（化学物質・薬物）〕	
	第4回	〃 〔急性腹症 外傷 骨折 熱傷〕	
	第5回	回復期：リハビリテーションを必要とする成人への看護 生活の再構築への支援	
	第6回	慢性期：慢性病とともに生きる人を支える看護 セルフマネジメントへの支援	
	第7回	終末期：人生の最期を迎える人と家族に寄り添う看護 終末期にある患者・家族の理解 医療の目的と場の特性、多職種連携と看護の役割	
	第8～9回	終末期に生じる身体的特徴・症状に対する緩和ケア 倦怠感 がん性疼痛 日常生活の支援	
	第10回	終末期における倫理的問題 精神的ケア 社会的・スピリチュアルな問題への対応	
	第11回	臨死期の看護 ビリーブメントケア 看護師自身のケア（医療従事者のグリーフケア）	
	第12～15回	周術期看護 周術期にある患者・家族の特徴、手術侵襲と生体反応 手術前期の看護〔術前検査、情報収集、アセスメント、合併症のリスクと予防的ケア、術前準備、オリエンテーション〕 手術期の看護〔麻酔の種類と特徴、生体侵襲、術中のリスク、手術室看護師の役割〕 手術後期の看護〔機能低下からの早期回復と術後合併症対策、苦痛の緩和、退院指導〕	
使用教材および参考文献	テキスト： 系統看護学講座 専門 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 南江堂 急性期看護Ⅱ 救急看護・クリティカルケア 南江堂 写真でわかる実習で使える看護技術 インターメディカ 看護技術プラクティス 学研メディカル秀潤社		
評価方法	小テスト 終講テスト レポート等		
備考			

授業科目	看護の実践力を培う実習		担当者	森山 ゆきみ 穂山 みどり
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	6	270	実習 270	2年次後期～3年次後期
	実務経験	有	看護師/医師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 対象の発達段階の特徴、健康レベル・経過別に適応した看護実践			
授業の目標および授業計画	<p>I. 目的 対象の発達段階の特徴を理解しながら、あらゆる健康レベルに対する問題・課題を明らかにした上で倫理的判断や科学的根拠に基づいた看護を保健医療福祉チームの一員として実践する。</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の健康レベルが身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響について理解する。 2. 対象の発達段階・健康レベル・経過別の特徴をふまえた看護過程の展開ができる。 3. 対象の健康の保持・増進、疾病の予防の援助ができる。 4. 継続看護の必要性を理解し、社会復帰への援助ができる。 5. 保健医療福祉チームにおける看護職の役割機能を理解し、多職種と協働・連携を図ることができる。 6. 自己の看護に対する考えを深め、今後の課題を明らかにできる。 <p>III. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の健康障害、健康レベル・経過別に応じた看護過程の展開を学ぶ。 2. 対象の個別性に応じた看護技術の展開を学ぶ。 3. 医療チームと連携し、患者を中心とした看護を展開する。 <p>IV. 実習場所</p> <p>独立行政法人 国立病院機構南九州病院 霧島市立 医師会医療センター 鹿児島医療生活協同組合国分生協病院 医療法人愛誠会 昭南病院</p>			
履修規定	<p>2年時の実習 既習の専門基礎分野・専門の単位を取得していることもしくは取得見込みであること。</p> <p>3年次の実習 既習の専門基礎分野・専門の単位を取得していること。</p>			
評価方法				
備考				

授業科目		老年期の理解		担当者	穂山 みどり
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義26・演習4		1年次 後期
	実務経験	有		看護師	
その実務経験を生かして行う教育内容 老年期の身体的・精神的・社会的変化 老年看護の機能と役割 老年者の保健・医療・福祉					
授業の目標および授業計画	<授業目標> 1. 老年期の身体的・精神的・社会的変化を理解し、老年看護の対象が理解できる 2. 老年者の健康状態の理解を深め、老年看護の機能と役割が理解できる。 3. 老年者の保健・医療・福祉の場における課題が理解できる。				
	<授業計画> 1回 老年期とは 加齢と老化 高齢社会（高齢者の生活・暮らし） 2～3回 高齢者模擬体験 4回 高齢者模擬体験から得たもの 5～6回 社会保障（医療保険・介護保険） 施設サービス・居宅サービス 7～8回 高齢社会における権利擁護 9回 老年看護とは 10～14回 高齢者の生理的特徴・アセスメント ①外皮系 ②感覚器系 ③循環器系・呼吸器系 ④消化器系 ⑤腎・泌尿器系、性・生殖系 ⑥内分泌・代謝系 ⑦運動器系 ⑧認知機能 15回 終講試験				
使用教材および参考文献	<テキスト> 系統看護学講座 専門 老年看護学 系統看護学講座 専門 老年看護・病態・疾患論 医学書院 <参考文献> 国民衛生の動向				
評価方法	以下を総合して評価する 1) レポート20% 2) 終講試験評価80%				
備考					

授業科目		老年看護の基本技術		担当者	上野えりか
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	15	講義15		1年次 後期
	実務経験	有		看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 老年看護の基本技術 老年者の日常生活行動の援助方法				
授業の目標および授業計画	<p><授業目標></p> <p>老年看護の基本技術及び老年者の日常生活行動に必要な援助の方法が理解できる。</p> <p><授業計画></p> <p>1回 老年看護について 高齢者への援助を考える時外せない事、発達課題等</p> <p>2回 高齢者とのコミュニケーションの特徴 難聴、白内障、失語症、構音障害等</p> <p>3回 日常生活を支える基本的活動 基本動作、生活機能評価、転倒、廃用症候群等</p> <p>4回 生活リズム・生活リズム 睡眠、不眠症、睡眠薬等</p> <p>5回 食事・食生活 高齢者に特徴的な変調、食生活アセスメント、食生活の支援等</p> <p>6回 排泄、清潔 排尿、排便障害清潔・褥瘡入浴介助、入浴事故、口腔ケア</p> <p>7回 優しさを伝える技術（ユマニチュード哲学、問題行動へのケア等）</p> <p>8回 終講試験</p>				
使用教材および参考文献	<p><使用教材></p> <p>テキスト 系統看護学講座 専門 老年看護学 系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾患論</p> <p>DVD ユマニチュード～優しさを伝えるケア技術～ 摂食・嚥下のメカニズム ー解剖・生理編ー</p> <p><参考文献></p> <p>テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ</p>				
評価方法	<p>1) レポート10%</p> <p>2) 終講試験評価90%</p>				
備考					

授業科目		高齢者の健康レベル に応じた援助方法	担当者	穂山 みどり	
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別	
	1	30	講義30	2年次 前期	
	実務経験	有	看護師		
	その実務経験を生かして行う教育内容 健康障害を持つ老年者の理解 健康レベルに応じた援助方法				
授業の目標および授業計画	<授業の目標> 健康障害を持つ老年者を理解し、健康レベルに応じた援助方法を理解する。				
	<授業計画>				
	1～2回	高齢者によくみられる身体症状① 発熱、熱中症、感染症、脱水、倦怠感			
	3～4回	高齢者によくみられる身体症状② 嘔吐、疼痛、浮腫、やせ、抑うつ			
	5～6回	認知症を理解するために			
	7～8回	高齢者の主な疾患と看護 ①認知症：認知機能の障害に対する看護			
	9～10回	高齢者の主な疾患と看護 ②脳血管障害：脳血管障害に対する看護			
	11～12回	高齢者の主な疾患と看護 ③パーキンソン病・パーキンソン症候群：パーキンソン病に対する看護			
	13回	検査・治療を受ける高齢者への看護 薬物療法と看護			
	14回	放射線療法・化学療法と看護 手術療法と看護			
	15回	エンドオブライフケア 講義			
	16回	終講試験			
	使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 専門 老年看護学 系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾患論 医学書院 根拠がわかる症状別看護過程 南江堂			
	評価方法	終講試験評価100%			
	備考				

授業科目	老年期の患者の 看護過程 事例展開	担当者	穂山 みどり
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	30	講義12・演習18
	実務経験	有	看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 老年期の患者の看護過程の事例展開		
授業の 目標および 授業計画	<授業目標> 老年患者の事例を通して看護過程を展開する方法が理解できる。 1. 疾患病態生理、症状、治療、検査、看護の要点が理解できる。 2. 情報を老年期の特徴を踏まえて解釈・分析し、文章化できる。 3. 情報の解釈・分析の結果から対象の持つ問題点と力・関連因子が抽出できる。 4. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的側面を踏まえ、関連図に患者の全体像が描ける。 5. 看護診断し優先度を考慮してプロブレムリストが作成できる。 6. RUNBAの法則、5W2Hを考慮し初期計画が立案できる。 7. 事例のアセスメントから計画立案を通して、回復期・リハビリ期にあるパーキンソン患者の看護が理解できる。		
	<授業計画> 1回 事例提示、事例の説明、事例の看護の視点、方向性について 2～3回 情報の整理 講義 4～10回 情報の解釈・分析 11～12回 関連図 プロブレムの抽出 プロブレムリストの作成（優先順位を考える） 13～14回 看護計画を立てる（全ての#について） 短期目標、達成基準を明確にする 講義・個人ワーク 15回 SOAP記録について 講義・個人ワーク		
使用教材および参考文献	<テキスト> 系統看護学講座 専門 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 専門 脳・神経 医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院 疾患別看護過程の展開 学研 症状別看護過程 学研		
評価方法	ワークへの取り組み姿勢・意欲・記録の提出状況・文献活用状況・時間管理・記録管理を総合して評価する		
備考			

授業科目	地域で生活する高齢者を理解する実習		担当者	穂山 みどり
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	2	90	実習90	2年次 前期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 老年期にある人の生活の場と健康レベル 老年期の身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的特徴 介護保険施設での高齢者への援助			
授業の目標および授業計画	<p><目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で自立した生活を営んでいる老年期にある人々の生活の場と健康レベルを理解できる。 2. 地域で生活しながら福祉サービスを利用している老年期にある人々の身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的特徴が理解できる。 3. 介護保険施設で生活する高齢者の発達段階と老化の特徴および健康障害を理解し、人格を尊重しながら入所者とその家族に応じた援助ができる。 <p><実習内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特徴をふまえて、コミュニケーションを図る。 2. アクティビティケアの実施。 3. 健康障害の程度に応じた日常生活援助を指導者と実施。 <p><実習場所></p> 地域 デイサービス（介護型・リハビリ型） グループホーム、介護老人保健施設、介護老人福祉施設 <p>* 老年看護学実習 I 要項に基づき展開する</p>			
履修要件	専門分野の基礎看護学、老年看護学の単位を取得もしくは取得見込みであること。			
評価方法	実習記録・レポート・出席状況などを総合して評価する			
備考				

授業科目		子どもとその家族の理解		担当者	吉川美代子
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義24 ・ 演習6		1年次・後期
	実務経験	有		看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 小児看護の対象、目的と役割 子どもに関連する動向と医療・保健・福祉 子どもの成長と発達				
授業の目標および授業計画	【学習目標】 小児各期の成長・発達の特徴や子どもと家族を取り巻く環境、社会の変化を理解し、小児看護の役割や課題について学ぶ。				
	【授業計画】				
	第1次	小児看護の対象の理解		(講義)	
	第2次	子どもの人権と看護		(演習)	
	～3次				
	第3次	小児看護の今、目標と役割		(講義)	
	第4次	子どもをめぐる諸統計		(講義・ワーク)	
	第5次	子どもと家族を取り巻く社会		(演習)	
	第6次	成長発達1	成長発達2の原則	形態的・機能的	(講義)
	第7次	成長発達2	情緒		(講義)
	第8次	成長発達3	あそび		(講義)
	第9次	成長発達4	家族・環境		(講義)
	第10次	成長発達5	栄養・評価		(講義)
	第11次	新生児期・乳児期		(講義・ワーク)	
	第12次	幼児期		(講義・ワーク)	
	第13次	学童期		(講義・ワーク)	
第14次	思春期・青年期		(講義・ワーク)		
第15次	終講試験、振り返り				
使用教材および参考文献	系統看護学講座	小児看護学 [1]		医学書院	
	国民衛生の動向			厚生統計協会	
	*その他	適宜資料を配布する			
評価方法	出席状況、事前課題やレポートの提出状況、授業参加態度、演習内容、終講試験から総合的に判断				
備考					

授業科目	子どもの健康問題と看護		担当者	吉川美代子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義24・演習6	2年次・前後期
	実務経験	有		看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 健康障害が小児および家族に及ぼす影響 発達段階を考慮した看護 基本的な子どもへの看護技術			
授業の目標および授業計画	【学習目標】 発達段階に応じた健康問題と保健指導について理解することができる 疾病や入院が子どもと家族に与える影響と必要な看護について理解できる 基本となる小児看護技術について理解・習得できる			
	【授業計画】			
	第1次	発達段階に応じた健康増進のための看護1 事故防止		
	第2次	発達段階に応じた健康増進のための看護2 基本的な生活援助技術		
	第3次	発達段階に応じた健康増進のための看護3 思春期の健康問題		
	第4次	病気や入院が子どもと家族に与える影響と看護1 総論		
	第5次	インフォームドアセント プレパレーション		
	第6次	外来における看護（トリアージ 電話対応 健康診査 皮膚病変）		
	第7次	救急処置が必要な子どもと家族の看護（誤飲・窒息・熱傷・熱中症）		
	第8次	子どもの感染症とその看護		
	第9次	急性症状を呈する子どもの看護1（発熱・嘔吐・下痢・脱水）		
	第10次	急性症状を呈する子どもの看護2（けいれん・呼吸困難）		
	第11次	子どもの診療に伴う看護技術1（フィジカルアセスメント、身体計測）		
	第12次	子どもの診療に伴う看護技術2（与薬法、採尿、穿刺）		
	第13次	子どもの診療に伴う看護技術3（採血、静脈内点滴、輸液管理）		
第14次	ハイリスク児と医療的ケア児			
第15次	発達障害の子どもの看護			
終講試験				
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 小児看護学〔1〕， 医学書院 系統看護学講座 小児看護学〔2〕， 医学書院 DVD：発達障害の理解と支援、小児看護技術 *その他：適宜資料を配布する。			
評価方法	出席状況、事前課題やレポートの提出状況、授業参加態度、演習、終講試験から総合的に判断			
備考	事前に提示する課題や共同学習、演習に必要な学習を行って参加すること			

授業科目		疾病や障害をもつ子どもの看護		担当者	吉川美代子
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義12・演習18		2年次・後期
	実務経験	有		看護師	
その実務経験を生かして行う教育内容 子供と家族の事例を通して看護実践ができる基礎の育成					
授業の目標および授業計画	【学習目標】 様々な状況にある子どもと家族の事例学習を通して問題解決思考を習得することができる				
	【学習計画】				
	第1次	重症心身障害児の看護			
	第2、3次	特別支援学校の見学、まとめ			
	第4次	子どもの虐待と求められるケア 総論			
	第5次	子どもの虐待と求められるケア 虐待事例の検討会			
	第6次	子どもの疾患看護演習1 ガイダンス、疾患学習 (気管支喘息、I型糖尿病 ネフローゼ症候群 急性骨髄性白血病)			
	第7次	周手術期にある子どもと家族の看護			
	第8次	周手術期の事例検討			
	第9次	子どもの疾患看護演習2 アセスメント、看護の方向性の決定			
	第10次	終末期にある子どもと家族の看護 痛みのある子どもの看護			
	第11次	子どもの疾患看護演習3 看護計画立案			
	第12次	子どもの疾患看護演習4 看護計画立案、プレパレーション計画			
	第13次	子どもの疾患看護演習5 プレパレーション作成と発表準備			
第14、15次	子どもの疾患看護演習6 発表 終講試験				
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 小児看護学 [1] , 医学書院 系統看護学講座 小児看護学 [2] , 医学書院 DVD：発達障害の理解と支援 その他：適宜資料配布				
評価方法	出席状況、事前課題やレポートの提出状況、授業参加態度、演習、終講試験から総合的に判断				
備考					

授業科目		健康な子どもを理解する実習		担当者	吉川美代子
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	実習30		2年次・前期
	実務経験	有		看護師	
その実務経験を生かして行う教育内容 健康な子どもの成長・発達の特徴を理解した援助の実際					
授業の目標および授業計画	<p>I. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 小児看護の基礎としての健康な子どもの成長・発達の特徴を理解し、援助の実際を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 小児の身体的・精神的・社会的な成長・発達の状態を理解する。 小児の成長・発達に応じた日常生活の援助の方法を理解する。 小児の安全と健康を守るために必要な環境を考え接することができる。 <p>II. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 認定こども園等の実習：24時間 乳幼児の成長発達の理解と保育 放課後児童クラブの実習：6時間 学童期の子どもの成長発達の理解と支援 <p>III. 実習場所</p> <ol style="list-style-type: none"> 霧島市の認定こども園 霧島市の放課後時児童クラブ 				
履修規定	専門分野（基礎看護学）（小児看護学に関する科目）の単位を取得もしくは取得見込みであること。				
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、レポート、既定の評価方法に基づく自己評価などから規定の評価表に基づいて評価する。				
備考					

授業科目	疾病や障害を持つ子どもへの看護実践を培う実習		担当者	吉川美代子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	2	60	実習60	3年次・前後期
	実務経験	有		看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 健康障害を持つ小児とその家族の理解と、発達段階・個別性を踏まえた援助方法			
授業の目標および授業計画	<p>I. 実習目標 重症心身障害児とその家族を統合的に理解し、必要な看護を学ぶ。 1) 重症心身障害児及びその家族について理解する。 2) 重症心身障害児への療育・看護の方法について学び、実践する。 3) 重症心身障害児施設での看護師の役割を理解する。</p> <p>II. 実習内容 対象の健康障害、健康レベルに応じた看護 対象の発達段階と個別性をふまえた看護 小児に特有な看護技術 保健医療福祉チームの役割と連携、社会資源の活用</p> <p>III. 実習場所 1. 独立行政法人国立病院機構 南九州病院 2. 社会福祉法人たちばな会 医療福祉センターオレンジ学園</p>			
履修規定	専門分野（基礎看護学）（小児看護学に関する科目）の単位を取得もしくは取得見込みであること。			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、レポート、既定の評価方法に基づく自己評価などから規定の評価表に基づいて評価する。			
備考				

授業科目		母性の理解		担当者	白石 睦
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	15	講義15		1年次・後期
	実務経験	有		看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 母性看護の対象の身体・心理・社会的側面 母性に関する動向や保健制度 母性看護の特徴				
授業の目標および授業計画	<p><授業目標> リプロダクティブヘルスの概念を理解し、その上で女性の一生を通じた健康の保持・増進と、次世代の子どもを健やかに育成するための母性機能の健全な発達を促すために、母性看護が果たす役割と課題について学ぶ。</p> <p><授業計画></p> <p>第1回 性・母性の概念 第2回 母性看護の歴史、母子保健の動向 第3回 性周期と妊娠の成立 第4～5回 女性のライフステージ各期における特徴と健康問題 第6回 人工妊娠中絶と生殖補助医療、家族計画について 第7回 ドメスティックバイオレンスと児童虐待、喫煙問題 第8回 終講試験</p>				
	使用教材および参考文献	<p><テキスト> 母性看護学 I 母性看護学概論. 医歯薬出版</p> <p><参考文献> 厚生統計協会：国民衛生の動向 概論・リプロダクティブヘルスと看護 ナーシンググラフィカ メディカ出版</p>			
評価方法	課題レポート10%、授業およびグループワークへの参加態度10%、終講試験80%				
備考					

授業科目	妊婦の看護	担当者	本田 和子
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	30	講義26・演習4
	実務経験	有	看護師・助産師
区分	その実務経験を生かして行う教育内容 1. 母体と胎児の正常な妊娠経過に伴う変化とその特性 2. 妊婦とその家族に必要な看護（保健指導） 3. 妊娠期に起こりうる正常からの逸脱とその看護		
授業の目標および授業計画	目標 1. 母体と胎児の正常な妊娠経過に伴う変化とその特性を理解する 2. 妊婦とその家族に必要な看護（保健指導）を学ぶ 3. 妊娠期に起こりうる正常からの逸脱とその看護を学ぶ 計画 回 内 容 1 妊娠の成立と妊娠の診断・妊娠期間と分娩予定日 2 妊娠期の身体的特徴・心理的特徴 3 妊娠期の身体的特徴・心理的特徴 4 胎児の発育と胎児付属物の機能 5 妊婦健康診査の概要・ヘルスアセスメントに必要な技術 6 妊婦への検査・妊娠経過（初期）のアセスメント 7 妊娠経過（中期～後期）のアセスメント 8 妊娠期の健康状態を保持・増進させるための看護 9 妊娠期の健康状態を保持・増進させるための看護 10 演習：妊婦体験・母体計測 11 演習：妊婦体験・母体計測 12 妊娠期に予測される問題と看護 13 出産準備への看護（出産準備教育） 14 妊娠期に起こりうる正常からの逸脱 15 妊娠期に起こりうる正常からの逸脱 終講試験		
使用教材および参考文献	テキスト 母性看護学 II（周産期各論）；医歯薬出版 母性看護学 I（概論）；医歯薬出版 看護実践のための根拠がわかる母性看護技術；メヂカルフレンド社 参考書 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程第2版；医歯薬出版 母性看護実践の基本・母性看護技術；メディカ出版 母性看護学概論・母性看護学各論；医学書院 DVD視聴		
評価方法	出席状況 課題 小テスト 終講試験		
備考			

授業科目	産婦の看護		担当者	本田 和子																																
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																																
	1	30	講義30	2年次・前期																																
	実務経験	有	看護師・助産師																																	
	その実務経験を生かして行う教育内容 分娩・産褥経過に伴う母性の変化とその特性 産婦・褥婦およびその家族に必要な看護																																			
授業の目標および授業計画	<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩経過とそれに伴う母性の変化と特性を理解し、必要な看護援助を学ぶ 2. 産婦とその家族に必要な看護援助を学ぶ 3. 分娩期に起こりうる正常からの逸脱とその看護を学ぶ <p>計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>分娩・産婦の看護を理解するために必要な用語と分娩の3要素</td></tr> <tr><td>2</td><td>正常分娩の機転と経過</td></tr> <tr><td>3</td><td>正常分娩の機転と経過</td></tr> <tr><td>4</td><td>分娩が母体と胎児に及ぼす影響</td></tr> <tr><td>5</td><td>分娩経過に影響を及ぼす因子と産痛</td></tr> <tr><td>6</td><td>産婦の心理・夫の心理と家族への支援，ドウーラとその役割</td></tr> <tr><td>7</td><td>産婦の診察</td></tr> <tr><td>8</td><td>分娩経過のアセスメント</td></tr> <tr><td>9</td><td>胎児の健康状態の判断</td></tr> <tr><td>10</td><td>産婦のアセスメント（分娩第1期～分娩直後）</td></tr> <tr><td>11</td><td>産婦のアセスメント（分娩第1期～分娩直後）</td></tr> <tr><td>12</td><td>分娩期の看護（分娩第1期～分娩直後）</td></tr> <tr><td>13</td><td>分娩期の看護（分娩第1期～分娩直後）</td></tr> <tr><td>14</td><td>分娩期に起こりうる正常からの逸脱</td></tr> <tr><td>15</td><td>分娩期に起こりうる正常からの逸脱</td></tr> </tbody> </table> <p>終講試験</p>				回	内 容	1	分娩・産婦の看護を理解するために必要な用語と分娩の3要素	2	正常分娩の機転と経過	3	正常分娩の機転と経過	4	分娩が母体と胎児に及ぼす影響	5	分娩経過に影響を及ぼす因子と産痛	6	産婦の心理・夫の心理と家族への支援，ドウーラとその役割	7	産婦の診察	8	分娩経過のアセスメント	9	胎児の健康状態の判断	10	産婦のアセスメント（分娩第1期～分娩直後）	11	産婦のアセスメント（分娩第1期～分娩直後）	12	分娩期の看護（分娩第1期～分娩直後）	13	分娩期の看護（分娩第1期～分娩直後）	14	分娩期に起こりうる正常からの逸脱	15	分娩期に起こりうる正常からの逸脱
回	内 容																																			
1	分娩・産婦の看護を理解するために必要な用語と分娩の3要素																																			
2	正常分娩の機転と経過																																			
3	正常分娩の機転と経過																																			
4	分娩が母体と胎児に及ぼす影響																																			
5	分娩経過に影響を及ぼす因子と産痛																																			
6	産婦の心理・夫の心理と家族への支援，ドウーラとその役割																																			
7	産婦の診察																																			
8	分娩経過のアセスメント																																			
9	胎児の健康状態の判断																																			
10	産婦のアセスメント（分娩第1期～分娩直後）																																			
11	産婦のアセスメント（分娩第1期～分娩直後）																																			
12	分娩期の看護（分娩第1期～分娩直後）																																			
13	分娩期の看護（分娩第1期～分娩直後）																																			
14	分娩期に起こりうる正常からの逸脱																																			
15	分娩期に起こりうる正常からの逸脱																																			
使用教材および参考文献	<p>テキスト</p> <p>母性看護学 II（周産期各論）；医歯薬出版 母性看護学 I（概論）；医歯薬出版 看護実践のための根拠がわかる母性看護技術；メヂカルフレンド社</p> <p>参考書</p> <p>ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程第2版；医歯薬出版 母性看護実践の基本・母性看護技術；メディカ出版 母性看護学概論・母性看護学各論；医学書院</p> <p>DVD視聴</p>																																			
評価方法	<p>出席状況 課題 小テスト 終講試験</p>																																			
備考																																				

授業科目	褥婦と新生児の看護		担当者	本田 和子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義26・演習4	2年次・後期
	実務経験	有	看護師・助産師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 新生児の生理的特徴や変化、適応過程、育児技術 母乳育児の特性 育児支援に役立つ情報			
授業の目標および授業計画	目標 1. 産褥経過に伴う母性の変化と特性を理解し、必要な看護援助を学ぶ 2. 母乳育児の特性を理解し、母乳育児支援に役立つ情報提供とケアを学ぶ 3. 新生児の生理的特徴や変化、適応過程を理解し、育児技術を学ぶ 4. 産褥期および新生児期に起こりうる正常からの逸脱とその看護を学ぶ 計画 回 内 容 1 産褥期の身体的特徴 2 産褥期の心理・社会的特徴，褥婦の健康状態のアセスメント 3 子宮復古・母乳育児に関する看護 4 退院後の生活調整・家族形成への支援 5 産褥期に予測される問題と看護 6 産褥期に起こりうる正常からの逸脱 7 特別な支援を要する褥婦の看護 8 新生児とは，胎外生活への適応 9 新生児の観察・検査 10 新生児のアセスメント（出生直後～生後24時間以内・生後24時間以降） 11 新生児の看護（出生直後～入院中・退院に向けて） 12 演習：沐浴および身体計測・バイタルサイン測定 13 演習：沐浴および身体計測・バイタルサイン測定 14 新生児期に起こりうる正常からの逸脱 15 新生児期に起こりうる正常からの逸脱 終講試験			
	使用教材および参考文献	テキスト 母性看護学 II（周産期各論）；医歯薬出版 母性看護学 I（概論）；医歯薬出版 看護実践のための根拠がわかる母性看護技術；メヂカルフレンド社 参考書 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程第2版；医歯薬出版 母性看護実践の基本・母性看護技術；メディカ出版 母性看護学概論・母性看護学各論；医学書院 DVD視聴		
評価方法	出席状況 課題 小テスト 終講試験			
備考				

授業科目		女性を支える看護 実践力を培う実習	担当者	白石 睦
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	2	90	実習90	3年次・前後期
	実務経験	有	看護師	
その実務経験を生かして行う教育内容 妊娠・分娩・産褥各期と新生児の理解 母性看護に必要な基礎的知識・技術・態度				
授業の目標および授業計画	<p>I. 目的 妊娠・分娩・産褥における母性の特徴を理解し、母性及び新生児に必要な看護と保健指導を行う基礎能力を養う</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的変化を観察し、その経過をとらえることができる 2. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の心理・社会的側面を観察し、特徴を理解する 3. 対象者の健康水準を理解し、看護の必要性や課題を理解する 4. 対象に適した援助技術やその方法を学ぶ 5. 母子に関する社会的資源を理解し、その活用方法を学ぶ 6. 自らの母性性・父性性に気付くことができる 7. 生命の尊厳を認識できる <p>III. 内容および方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母子の受持ち実習による看護過程展開 2. 外来実習による妊婦の看護 3. 機能別実習による産婦の看護および新生児の看護 4. その他 <p>IV. 実習場所 みつお産婦人科 前田産婦人科クリニック</p> <p>V. 実習の進め方 母性看護学実習要項に基づき展開する</p>			
履修要件	既習の専門基礎・専門分野（基礎看護学、母性看護学）の単位を取得していること。			
評価方法	出席状況，看護実践状況，実習記録，レポート，規定の評価表にもとづく自己評価などから規定の評価表に基づいて評価する。			
備考				

授業科目		精神の健康の保持・増進	担当者	元 桂恵
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義22・演習 8	1年次 後期
	実務経験	有	看護師	
区分	その実務経験を生かして行う教育内容 精神看護の目的、対象、機能と役割 精神の健康に影響を与える要因 精神の健康の保持・増進にかかわる保健活動			
授業の目標および授業計画	<p>授業の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護の目的、対象、機能と役割について理解する。 2. 精神の健康に影響を与える要因を理解し、精神の健康の保持・増進にかかわる保健活動について学ぶ。 <p>授業計画</p> <p>1回目：講義 精神看護学の位置づけ・目的・対象 精神の健康・不健康</p> <p>2回目：演習 生活の場と精神保健①</p> <p>3回目：演習 生活の場と精神保健②</p> <p>4回目：演習 生活の場と精神保健③</p> <p>5回目：演習 生活の場と精神保健④</p> <p>6回目：講義 精神の機能（自我の機能・防衛機制・精神力動・転移感情）</p> <p>7回目：講義 精神の発達と危機①</p> <p>8回目：講義 精神の発達と危機②</p> <p>9回目：講義 ストレス（セリエ）とコーピング（ラザルス）</p> <p>10回目～11回目 ：講義 危機の概念（カプラン）・危機の予防（アギユレラ・メゼック） DVD『ラビットホール』</p> <p>12回目：講義 危機介入（災害時の精神保健）</p> <p>13回目：講義 家族システム・家族支援</p> <p>14回目：講義 精神科以外での精神看護（身体疾患をもつ患者の精神保健・保健医療福祉に従事する者の精神保健・リエゾン精神看護）</p> <p>15回目：終講試験</p>			
使用教材および参考文献	<p><テキスト></p> <p>「系統看護学講座 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎」医学書院</p> <p>「系統看護学講座 精神看護学〔2〕 精神看護の展開」医学書院</p> <p><参考文献></p> <p>国民衛生の動向. 厚生労働統計協会</p> <p><資料・その他></p> <p>切抜き速報健康りてらしい ニホン・ミック</p> <p>DVD『ラビットホール』</p>			
評価方法	<p>以下の結果を総合して評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 課題レポート 10点 2) 演習 20点 3) 終講試験 70点 			
備考				

	授業科目	精神の疾病と治療	担当者	相良 威一郎
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義15	2年次 前期
	実務経験	有	医師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 精神の機能と症状・状態像 精神疾患における診断のプロセス・治療			
授業の目標および授業計画	<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神の機能と症状・状態像について理解する。 2. 主な精神疾患の特徴と診断プロセス、治療について理解する。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目：講義 精神科総論 2回目：講義 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害の症状・検査・治療 3回目：講義 気分（感情）障害の症状・検査・治療 4回目：講義 器質性精神障害の症状・検査・治療 5回目：講義 てんかんの症状・検査・治療 6回目：講義 物質関連障害（アルコール・薬物依存症）の症状・検査・治療 神経症性障害の症状・検査・治療 7回目：講義 医療観察法・精神保健福祉法 8回目：終講試験 			
使用教材および参考文献	<p><テキスト> 「系統看護学講座 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎」医学書院</p>			
評価方法	受講状況・終講試験の結果で総合的に評価する			
備考				

授業科目		社会の中の精神障害	担当者	元 桂恵
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義24 演習6	2年次 前期
	実務経験	有	看護師	
区分	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	<p>授業の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史的変遷から、精神障害とその治療に関わる社会の歴史と文化とのつながりを知り、その多様性と普遍性を理解する。 2. 精神疾患・障害がある人の人権と安全を守り、回復を支援するための治療的環境と看護について学ぶ。 <p>授業計画</p> <p>1回目：講義 精神障害の理解と考え方</p> <p>2回目：講義 社会の変化に伴う精神保健医療の変遷（欧米）</p> <p>3回目：講義 社会の変化に伴う精神保健医療の変遷（日本）</p> <p>4回目～5回目 ：講義 精神疾患が与える影響と精神障害者を取り巻く環境 DVD『ビューティフル・マインド』</p> <p>6～7回目 ：演習 日本の精神保健医療福祉の現状と課題 精神保健医療福祉の改革ビジョン 偏見・差別・スティグマ</p> <p>8回目：講義 精神保健医療福祉に関する法制度</p> <p>9回目：講義 安全な治療環境の提供</p> <p>10回目：講義 看護の倫理と人権擁護</p> <p>11回目：講義 精神障害のとらえ方（疾患モデルと障害モデル）</p> <p>12回目：講義 精神障害者の社会資源の活用とケアマネジメント</p> <p>13回目：講義 地域精神保健活動（カプランの3つの予防概念）</p> <p>14回目：講義 生きる力と強さに着目した援助（ストレングスモデル）</p> <p>15回目：演習 ストレングス・マッピングシートの活用 終講試験</p>			
使用教材および参考文献	<p><テキスト></p> <p>「系統看護学講座 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎」医学書院</p> <p>「系統看護学講座 精神看護学〔2〕 精神看護の展開」医学書院</p> <p><参考文献></p> <p>国民衛生の動向. 厚生労働統計協会</p>			
評価方法	<p>以下の結果を総合して評価する</p> <p>1) 課題レポート・演習 20点</p> <p>2) 終講試験 80点</p>			
備考				

授業科目	精神に障害を持つ人への看護	担当者	元 桂恵
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	30	講義10・演習20
	履修年次	2年次	後期
	実務経験	有	看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 精神看護実践に必要な対人関係技術 精神に障害を持つ対象への看護実践方法		
授業の目標および授業計画	<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護実践に必要な対人関係技術について学ぶ。 2. 精神疾患・障害のある対象への基本的な看護実践の方法を理解する。 3. 精神疾患・障害のある対象の状態をアセスメントし看護を展開する方法を学ぶ。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目：講義 主な精神状態に対する看護 2回目：講義 身体療法（薬物療法・電気けいれん療法）時の看護 3回目：講義 精神療法・社会療法時の看護 4回目：演習 主な精神疾患に対する看護（統合失調症・気分（感情）障害） 5回目：演習 主な精神疾患に対する看護（てんかん・器質性精神障害・依存症など） 6回目：演習 主な精神疾患に対する看護（神経症性障害・人格障害など） 7回目～8回目 ：演習 ケアの人間関係①体験学習 9回目：講義 ケアの人間関係②自己理解・他者理解 プロセスレコード 10回目：講義 ケアの人間関係③身体ケアの必要性 治療的コミュニケーション技法 11回目～15回目 ：演習 精神疾患をもつ対象の事例を用いた思考過程演習 終講試験 		
使用教材および参考文献	<p><テキスト></p> <p>「系統看護学講座 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎」医学書院 「系統看護学講座 精神看護学〔2〕 精神看護の展開」医学書院</p> <p><参考文献></p> <p>演習で使用する文献は、学習課題に沿って用意する</p>		
評価方法	<p>以下の結果を総合して評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 演習（課題レポート・体験学習・思考過程演習） 50点 2) 終講試験 50点 		
備考			

授業科目	精神疾患患者への 看護実践力を培う実習		担当者	元 桂恵
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	2	90	実習90	3年次 前期～後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 精神に障害を持つ対象を理解した看護実践			
授業の目標および授業計画	<p>I. 授業目的 精神に障害をもつ対象の理解を深め、必要な看護が実践できる基礎的知識・技術・態度を身につける。</p> <p>II. 授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象に現れている症状を把握し、検査・治療に対する援助が理解できる。 2. 環境が対象に与えている影響について理解し、治療的環境の意味を考えることができる。 3. 患者との相互関係の中で自己を振り返り、関係を発展させることができる。 4. 精神の障害が対象に与えている影響を知り、レベルに応じた自立への援助が理解できる。 5. 精神障害者の社会復帰活動における課題を見出すことができる。 <p>III. 授業計画 下記の学習内容について「精神看護学実習要項」に基づき実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害の病因とその分類・主な症状の理解 2. 精神状態が日常生活に与えている影響と援助の理解 3. 検査・治療の目的、心身に与えている影響、検査・治療時の援助 4. 精神科病棟の構造・設備・特殊性、環境の治療的意味 5. 医療チームメンバーの役割、連携の重要性 6. 治療的コミュニケーション技術の重要性、自己の振り返り 7. 対象の社会復帰を阻害する因子、社会復帰支援の実際 <p>IV. 実習場所 医療法人仁心会 松下病院</p>			
履修要件	既習の専門基礎分野・専門分野（「基礎看護学」「精神の健康の保持・増進」「社会の中の精神障害」「精神の疾病と治療」「精神に障害を持つ人への看護」）の単位を取得していること。			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、レポートについて、規定の評価表に基づいて評価する。			
備考				

授業科目	地域で暮らす精神障害者への 看護実践力を培う実習		担当者	元 桂恵
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	実習30	3年次 前期～後期
	実務経験	有		看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	<p>精神に障害を持ち地域で生活している人のセルフケアと支援のあり方 精神に障害を持ち地域で生活している人が受けられる福祉サービス</p> <p>I. 授業目的 精神に障害を持ち地域で生活している人への支援の実際について理解する。</p> <p>II. 授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障害を持ち地域で生活している人のセルフケアについて、ストレング스에 焦点を当てて情報を得ることができる。 2. 精神に障害を持ち地域で生活している人を支援する多様な職種の役割と機能を理解する。 3. 精神に障害を持つ人の地域生活を支える制度と支援の実際について理解する。 <p>III. 授業計画 下記の学習内容について「精神看護学実習要項」に基づき実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障害を持ち地域で生活している人のセルフケアと支援の実際 2. 精神に障害を持ち地域で生活している人を支援する多様な職種の役割と機能 3. 精神に障害を持ち地域で生活している人が活用している制度 <p>IV. 実習場所</p> <p>社会福祉法人たちばな会 就労支援事業所 オレンジの里 医療法人仁心会 松下病院</p>			
履修要件	既習の専門基礎分野・専門分野（「基礎看護学」「精神の健康の保持・増進」「社会の中の精神障害」「精神の疾病と治療」「精神に障害を持つ人への看護」）の単位を取得していること。			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、レポートについて、規定の評価表に基づいて評価する。			
備考				

	授業科目	看護管理	担当者	鈴木敏子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義20・演習10	2年次・前後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 1. 看護ケアのマネジメント 2. 組織としての看護サービスのマネジメント			
授業の目標および授業計画	授業の目標 対象に提供される看護ケアと、組織の管理者としての看護サービスのマネジメントについて学ぶ。			
	授業計画			
	回	内容		
	1～2回	看護管理とは 1. 看護ケアのマネジメント 教育ラダー・キャリアアップ		
	3～4回	看護基準・看護手順 タイムマネジメント ストレスマネジメント		
	5～6回	看護業務の危険度 チーム医療		
	7～8回	2. 看護サービスのマネジメント 病院の理念・目標・組織図 看護の目標・組織図		
	9～10回	看護単位とケア提供システム 人材のマネジメント 採用・配置・解雇		
	11～12回	労働環境・法制度 雇用形態・勤務形態・育児休業・介護休業		
	13～14回	施設・設備・物品のマネジメント 医薬品・医療機器・コスト 経営に関わる情報のマネジメント		
15回	収支管理・予算編成・診療報酬			
使用教材および参考文献	テキスト：看護の統合と実践[1]			看護管理 医学書院
評価方法	終講テスト レポート等 出席状況・グループワークの授業態度を参考とする。			
備考				

	授業科目	医療安全	担当者	白石 睦
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義・演習	2年次前・後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 看護業務における医療事故の種類と事故発生要因 医療事故分析と事故発生のメカニズム 防止策と事故後の対応			
授業の目標および授業計画	<p><授業目標> 医療や看護を取り巻く医療安全の現状を理解し、医療事故の要因からその分析方法までを学ぶ。また、臨床現場において起こりやすい事故とその取り組みを理解する。さらに事例を用いて多角的視点から事故の背景や要因を分析し、安全対策を考え、事故後の対応を学ぶ。</p> <p><授業計画> 第1回 医療安全の歴史と医療安全への取り組み 第2回 医療事故発生のメカニズム 第3回 看護における医療安全対策 第4回 医療事故分析手法、事故後の対応、事例検討（KYT） 第5回 看護師の労働安全衛生上の事故防止 第6・7回 医療事故防止のためのコミュニケーション技術 第8回 終講試験</p>			
使用教材および参考文献	<p><参考文献> 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社</p>			
評価方法	レポート 10%、授業およびグループワークへの参加態度 10% 終講試験 80%			
備考				

授業科目		総合看護の実践		担当者	村下 清美
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義24 演習6		3年次・後期
	実務経験	有		看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 臨床での総合的な判断・対応の基礎				
授業の目標および授業計画	目標 臨床に近い状況で総合的な判断・対応を体験することにより卒後の看護業務遂行のイメージができる。				
	授業計画				
	第1回	実務に即した看護実践実習の学びの共有			
	第2～4回	複数患者を受け持つための情報収集・管理 1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理			
	第5回	多重課題への対処 多重課題の危険性 多重課題発生時の対処の原則			
	第6回	看護実践と健康管理 看護職の生活の特徴 生活パターンの確立 ストレス対策			
	第7回	夜勤の業務内容について			
	第8回	看護師のチームワークとリーダーシップ、コミュニケーション			
	第9回	指示と報告の基本			
	第10回	看護チームでの情報伝達・共有			
	第11回	多職種のチームワークとコミュニケーション			
	第12～13回	演習 複数患者への対応 転倒時の対応			
	第14回	演習の振り返り まとめ			
	第15回	計算問題			
	使用教材および参考文献	看護の統合と実践 看護実践マネジメント 医療安全			
評価方法	出席状況 授業参加態度 レポート 終講試験				
備考					

授業科目		国際・災害看護	担当者	鈴木敏子	
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別	
	1	30	講義20・演習10	3年次・前後期	
	実務経験	有	看護師		
	その実務経験を生かして行う教育内容 国内外の災害看護の基礎と活動 国際看護の現状と課題				
授業の目標および授業計画	授業の目標 国内外の災害看護の基礎と活動 国際看護の現状と課題について理解を深める。				
	授業計画				
	回	内容			
	1～2回	国際看護学の定義・基礎知識 WHOの1地域の国について			
	3～4回	グローバルヘルスと国際協力 世界の健康問題の現状 国連の機関と役割			
	5～6回	国際看護活動の現状 ミレニアム開発目標 国際救援 災害と難民			
	7～8回	災害医療と災害看護の基礎知識 災害の歴史と法による減災			
	9～10回	災害サイクルに応じた災害看護 急性期・慢性期・復興期・静穏期 被災者に応じた災害看護 子ども・妊産婦・高齢者・外国人 障害者・慢性疾患患者			
	11～12回	急性期・亜急性期の看護 トリアージ事例・災害支援ナース			
	13～14回	慢性期・静穏期の看護 生活支援・ボランティア・防災			
	15回	テスト			
	使用教材および参考文献	テキスト：看護の統合と実践 災害看護学・国際看護学 医学書院			
	評価方法	終講試験 レポート評価 等 出席状況・グループワークの授業態度を参考とする。			
	備考				

授業科目		災害・救急時の 看護実践力を培う演習	担当者	村下 清美	
区分	単位数	時間数	授業形態		
	1	30	講義4 演習26		
	実務経験	有	看護師		
	その実務経験を生かして行う教育内容 災害時における看護師の役割、看護の実際 救命救急を必要とする対象への看護の実際				
授業の 目標および 授業計画	目標	災害時における看護師の役割、看護の実際を理解する 救命救急を必要とする対象への看護の実際について学ぶ			
	授業計画				
	第1～2回	災害看護で求められる能力 施設における災害訓練 病院内災害対策点検項目			
	第3回	災害発生時の安全確認と対応			
	第4～5回	避難行動と看護師の役割			
	第6～7回	災害時特有の疾病 災害関連死の発症機序と対策 事例を用いた学習（解剖生理 病態 災害後の避難生活におけ るリスク因子 予防方法 病院搬送すべき症状） ショックの状態観察に必要なフィジカルアセスメント			
	第8回	事例を用いた演習 急変時の対応 連携と役割分担			
	第9回	事例を用いた演習 BLS一次救命処置			
	第10～11回	看護技術演習（十二誘導心電図 心電図モニター・観血的動脈圧モニターの観察方法 静脈血採血 血管確保 輸液ポンプ シリンジポンプの操作 人工呼吸 酸素吸入 気管内挿管 吸引 胃管挿入 膀胱留置カテーテル挿入）救急時に使用される医薬品			
	第12～13回	事例を用いた演習 ALS二次救命処置 集中治療室への引き継ぎ			
	第14～15回	集中治療室入室後の看護			
	使用 教材 および 参考 文献	看護の統合と実践	災害看護学	医学書院	
		看護の統合と実践	看護実践マネジメント/医療安全		メヂカルフレンド社
		急性期看護Ⅱ	救急看護・クリティカルケア	南江堂	
		写真でわかる	実習で使える看護技術	インターメディカ	
看護技術プラクティス			学研メディカル秀潤社		
評価 方法	出席状況				
	授業参加態度				
	レポート 終講試験				
備考					

授業科目		実務に即した看護実践実習		担当者	村下 清美
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	2	90	臨地実習90		3年次・前/後期
	実務経験	有		看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 病棟管理の実際 チーム医療 看護専門職の役割				
授業の目標および授業計画	<p>I 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護問題を明確にし、計画の立案ができる。 2. 看護の優先順位を考え、必要な援助を実施し、評価・修正ができる。 3. 外来看護師の役割を理解し、外来看護の実際が理解できる。 4. 看護管理の実際が理解できる。 5. 看護専門職として、自己の課題とその対策について考えることができる。 6. 主体的に学習することができる。 <p>II 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複数受け持ちの看護を実践する。 2. 業務の流れを把握しチームの一員として看護を実践する。 管理の内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院組織における看護管理 (看護組織と運営 看護理念 看護方式 病院看護機能評価) 2. 病棟管理者の役割と業務 (病床管理 医療安全対策 職員の配置 職員の健康管理 他部門との連携・調整 職員・看護学生の指導) 3. コーディネーターの役割と業務 <p>III. 実習場所 霧島市立医師会医療センター 愛誠会昭南病院</p> <p>「統合実習要項」に基づき実習を行う。</p>				
履修要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の専門基礎分野の単位を修得していること。 2. 専門分野の基礎看護学・看護の統合と実践の単位を取得もしくは取得見込みであること。 				
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、規定の評価表に基づいて評価する。				
備考					